



SoapUI Pro: API 機能テスト ツール  
LoadUI Pro: API 負荷テスト ツール  
ServiceV Pro: サービス仮想化ツール

# ライセンスの アクティベーションおよびその解除

ReadyAPI 3.0



エクセルソフト株式会社  
作成: 2019.11.20

## 目次

はじめに.....	6
<b>ReadyAPI インストール概要.....</b>	<b>7</b>
ダウンロード.....	7
インストールする前に.....	7
インストール手順.....	8
ヘッドレス マシンでの ReadyAPI のインストール.....	12
ReadyAPI フォルダー リファレンス.....	12
<b>ReadyAPI ライセンスについて.....</b>	<b>13</b>
ライセンスの種類.....	13
アクティベーション手順.....	14
ライセンスの更新.....	15
追加のライセンス.....	16
ライセンスの互換性.....	16
アクティベーション方法.....	16
ライセンスの種類.....	17
ライセンスについて.....	17
固定およびフローティング ライセンスの種類.....	17
ツール固有ライセンスおよびバンドル ライセンス.....	18
ツール固有.....	18
バンドル.....	19
ライセンスのアクティベーション.....	19
ライセンスの互換性.....	20
ReadyAPI 1.5 またはそれ以降でアクティベートされたライセンスの使用.....	20
ReadyAPI 1.4 またはそれ以前でアクティベートされたライセンスの使用.....	20
License Manager ダイアログ.....	21
ライセンス操作.....	22
<b>アクティベーション.....</b>	<b>24</b>
<b>評価版ライセンス.....</b>	<b>24</b>

ReadyAPI のインストール前に評価版を入手 .....	24
ReadyAPI 評価版ライセンスのオンライン アクティベーション .....	26
要件 .....	26
アクティベーション手順 .....	26
評価版ライセンスのオフライン アクティベーション .....	30
<b>固定ユーザー ライセンスのアクティベーション .....</b>	<b>33</b>
ライセンス コードによるオンライン アクティベーション .....	33
要件 .....	33
ライセンスの適用 .....	34
ライセンスのアクティベーション .....	36
ユーザー情報の提供 .....	37
ファイルによるオフライン アクティベーション .....	38
ライセンスの適用 .....	38
ライセンスのアクティベート .....	40
<b>フローティング ライセンスのアクティベーション .....</b>	<b>43</b>
フローティング ライセンスの適用 .....	43
要件 .....	43
ライセンスの適用 .....	44
License Server のシステム要件 .....	47
サポートするオペレーティング システム .....	47
サポートする Java バージョン .....	47
License Server の設定 .....	48
1. ライセンスの取得 .....	48
2. Protection! Licensing Server のインストール .....	49
3. ライセンス サーバーへの接続 .....	50
4. ライセンスのインストール .....	54
ライセンスサーバーが最新であることを確認 .....	59
サーバーの詳細設定 .....	61
ライセンスサーバーの再起動 .....	62
次のステップ .....	62
ユーザーおよびグループの管理 .....	64

管理コンソールを使用.....	64
管理コンソールの実行 .....	64
<b>LDAP サーバーの使用 .....</b>	<b>73</b>
要件 .....	73
一般情報 .....	73
LDAP 接続を作成.....	74
2. ユーザー グループを構成する.....	75
3. ライセンス マネージャーでユーザーグループにライセンスを割り当て.....	78
licenseUsers ファイルを構成する.....	78
<b>VirtServer ライセンスのアクティベーション.....</b>	<b>84</b>
要件 .....	84
アクティベーション手順 .....	84
1. ライセンス ファイルのインストール .....	84
2. ライセンスのアクティベーション .....	85
エラーの場合.....	88
<b>ライセンスの更新.....</b>	<b>89</b>
<b>ライセンスのエクスポート/インポート .....</b>	<b>91</b>
ライセンスのエクスポート .....	91
ライセンスのインポート .....	91
<b>ライセンスのアクティベーション解除.....</b>	<b>92</b>
<b>固定ユーザーライセンスのオンラインでのアクティベーション解除 .....</b>	<b>93</b>
要件 .....	93
アクティベーション解除の手順.....	93
<b>固定ユーザー ライセンスのオフラインでのアクティベーション解除.....</b>	<b>96</b>
アクティベーション解除の手順.....	96
<b>VirtServer ライセンスのアクティベーション解除.....</b>	<b>99</b>
要件 .....	99
アクティベーション解除の手順.....	99
<b>ヘッドレス マシン .....</b>	<b>100</b>
<b>ライセンスに関する問題点 .....</b>	<b>101</b>

固定ユーザー ライセンスの問題点.....	101
フローティング ライセンスの問題点 .....	102
評価版ライセンスの問題点.....	103
Jenkins での“License Not Found” (“ライセンスが見つかりません”) という問題...	104
Windows ユーザーの場合 .....	104
Linux / MacOS ユーザーの場合 .....	106
<b>ReadyAPI 3.0 への移行 .....</b>	<b>109</b>
ReadyAPI 1.x から.....	109
SoapUI Open Source または SoapUI Pro から.....	109
LoadUI または LoadUI Pro から .....	109
<b>トラブルシューティング .....</b>	<b>110</b>
大規模な SoapUI テスト実行中のフリーズ .....	110
ReadyAPI のスプラッシュ スクリーンが開始しない.....	110
macOS 上でのフリーズ.....	111
<b>サポート .....</b>	<b>112</b>
お問合せ先 .....	112

## はじめに

---

このガイドブックは、ReadyAPI (v3.0) ユーザー ガイドのライセンスのアクティベーションに関して説明した部分を抜粋して翻訳したものです。

インストール ファイルの入手、各機能の詳細を含んだ最新バージョンの ReadyAPI ユーザーガイドは、SmartBear 社の下記のサイトで参照できます。

<http://readyapi.smartbear.com/start>

© 2019 SmartBear Software. All rights reserved.

Translated by XLsoft Corporation

# ReadyAPI インストール概要

---

ここでは、ReadyAPI のインストール方法について詳しく説明します。開発環境に応じて Windows、Linux、および macOS のバイナリ インストーラーがご利用いただけます。

## ダウンロード

ReadyAPI のインストール ファイルは、SmartBear 社のサイトから入手できます。

ダウンロード先: <https://support.smartbear.com/downloads/readyapi>

## インストールする前に

製品をインストールする前に、システム要件を確認してください。

システム要件:

<https://support.smartbear.com/readyapi/docs/general-info/system-requirements.html>

ReadyAPI を実行するには、ReadyAPI ツール (SoapUI、LoadUI、Secure、ServiceV) のいずれかまたはすべての ReadyAPI 評価版ライセンス、または商用の Pro ライセンス のどちらかが必要です。ツールの 1 つの Pro ライセンスを使用すると、他のツールの基本機能が利用できます。

ReadyAPI を初めて使用する際には、ライセンスをアクティベートする必要があります。

**既存の ReadyAPI ユーザー:**

- すでにアクティベートした ReadyAPI のライセンスを所有している場合、新しいライセンスをアクティベートする必要はありません。
- VirtServer は、ライセンスが別途必要です。

## インストール手順

1. [ReadyAPI Downloads Center](#) ページから、プラットフォームに対応したインストーラーをダウンロードします。

**注意:** ReadyAPI を **Linux** マシンにインストールしている場合は、インストーラーが適切なアクセス許可を取得し、実行可能の状態であることを確認してください。

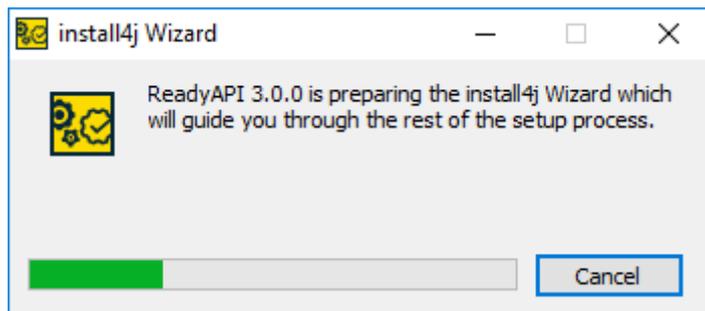
```
chmod +x ./ReadyAPI-x64-3.0.0.sh
```

ReadyAPI Updater を使用してインストーラーをダウンロードすることもできます。

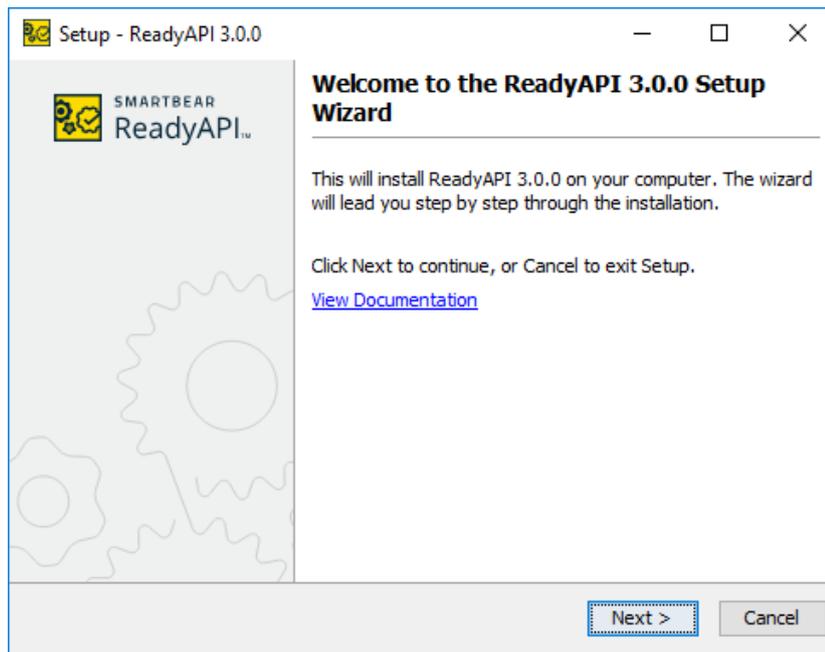
1. **[Help] > [Check for Updates]** を選択します。
2. **[New Version Check]** ダイアログの **[Download]** をクリックします。
3. ダウンロードの場所を指定して、**[Next]** をクリックします。
4. **[Yes, execute the update installer now]** または **[No, I will execute the update installer later]** を選択し、**[Finish]** をクリックします。

**注意:** インストーラーを後で実行することを選択した場合、Installation Wizard のステップが異なります。

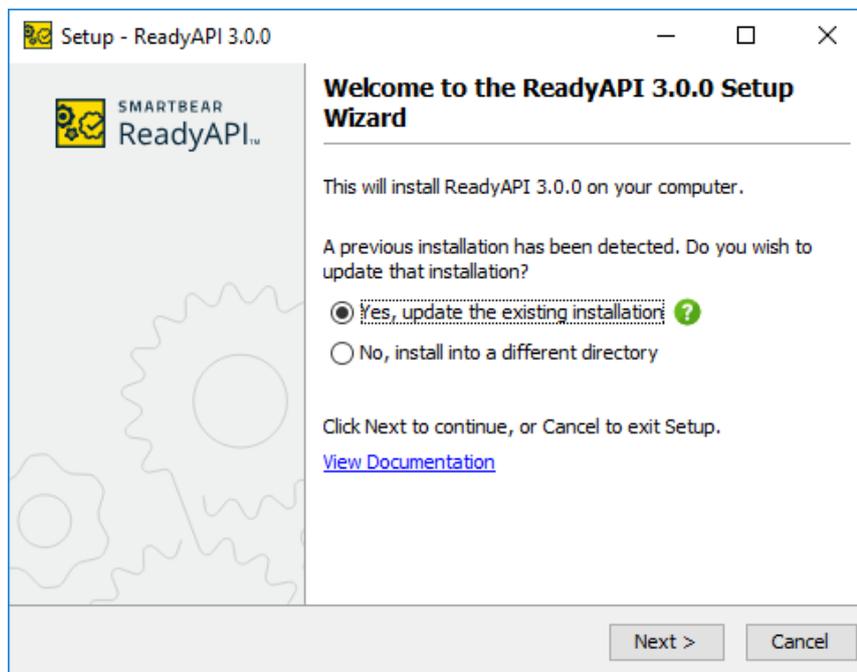
2. インストーラーを実行します。ファイルが展開され、インストールの準備が行われます。



3. ReadyAPI がコンピューターにインストールされていない場合、Welcome 画面が表示されます。[Next] をクリックしてインストール処理を続行します。ReadyAPI がすでにコンピューターにインストールされている場合は、**update the existing installation** (既存のインストールの更新)、または **install into a different directory** (異なるディレクトリへのインストール) のいずれかを選択します。



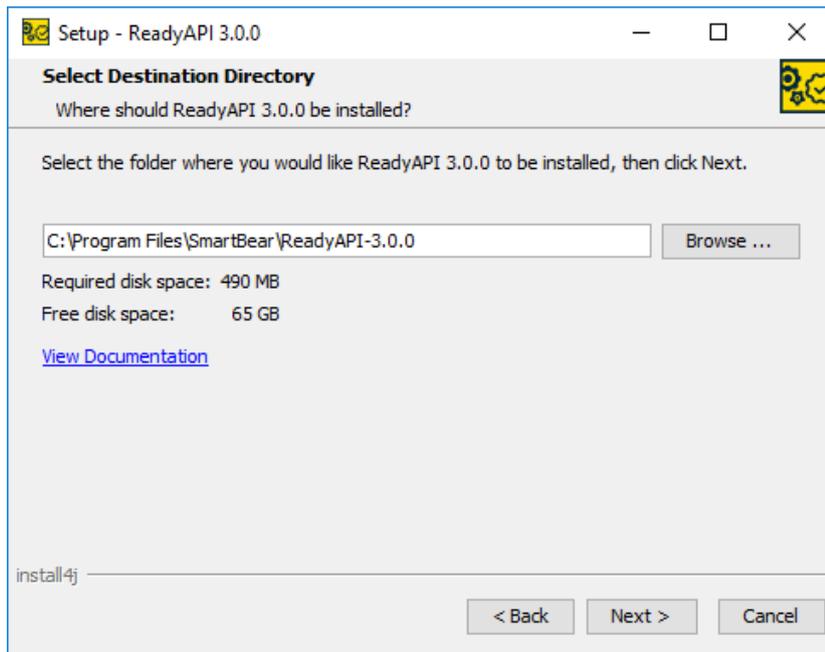
ReadyAPI がすでにコンピューターにインストールされている場合は、**update the existing installation** (既存のインストールの更新)、または **install into a different directory** (異なるディレクトリへのインストール) のいずれかを選択し、[Next] をクリックします。



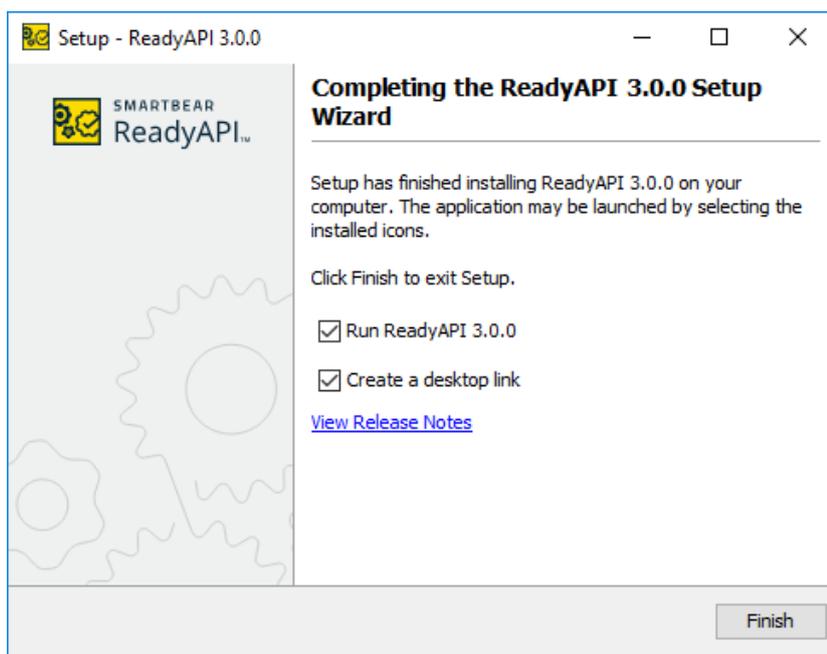
**注意:** ReadyAPI の Updater を使用してインストーラーをダウンロードし、後で実行を選択した場合、Wizard で [Next] をクリックしてください。

**ヒント:** インストールされている場所を表示するにはヘルプ  をクリックします。

- ReadyAPI のインストールが初めての場合、または別のディレクトリにインストールすることを選択した場合、ウィザードはインストールする場所を指定します。



- インストールが完了したとき、[Run ReadyAPI] チェックボックスを選択すると、ウィザードを閉じた後に ReadyAPI が起動します。[Create a desktop icon] チェックボックスを選択して、ReadyAPI のアイコンをデスクトップ上に作成できます。



6. **[Finish]** をクリックします。

## ヘッドレス マシンでの ReadyAPI のインストール

このガイドでは省略しますので、『[オンライン ヘルプ](#)』を参照してください。

### ReadyAPI フォルダー リファレンス

ReadyAPI をインストールすると、マシン上の複数の場所にファイルが配置されます。詳細なファイルおよび場所については、下記のオンラインドキュメントをご参照ください。

<https://support.smartbear.com/readyapi/docs/general-info/install/files.html>

## ReadyAPI ライセンスについて

---

ReadyAPI を使用するためには、いずれかの ReadyAPI ツール (SoapUI Pro、LoadUI Pro、または ServiceV) の評価版ライセンスあるいは商用ライセンスが必要です。

ライセンスを取得していない場合、評価版のライセンスをリクエストすることができます。

### ライセンスの種類

ReadyAPI のライセンスは、SoapUI や、LoadUI、ServiceV など、使用するアプリケーションによって種類が異なります。アプリケーションごとの個別のライセンス、または複数アプリケーションのバンドル ライセンスを購入できます。

たとえば、ServiceV アプリケーションのライセンスでは、そのツールのすべての機能 (Pro 機能を含めて) が有効になり、さらにその他のアプリケーション (LoadUI および SoapUI) の基本機能も有効になります。

各ライセンスには、固定ユーザー ライセンスまたはフローティング ユーザー ライセンスが用意されています。

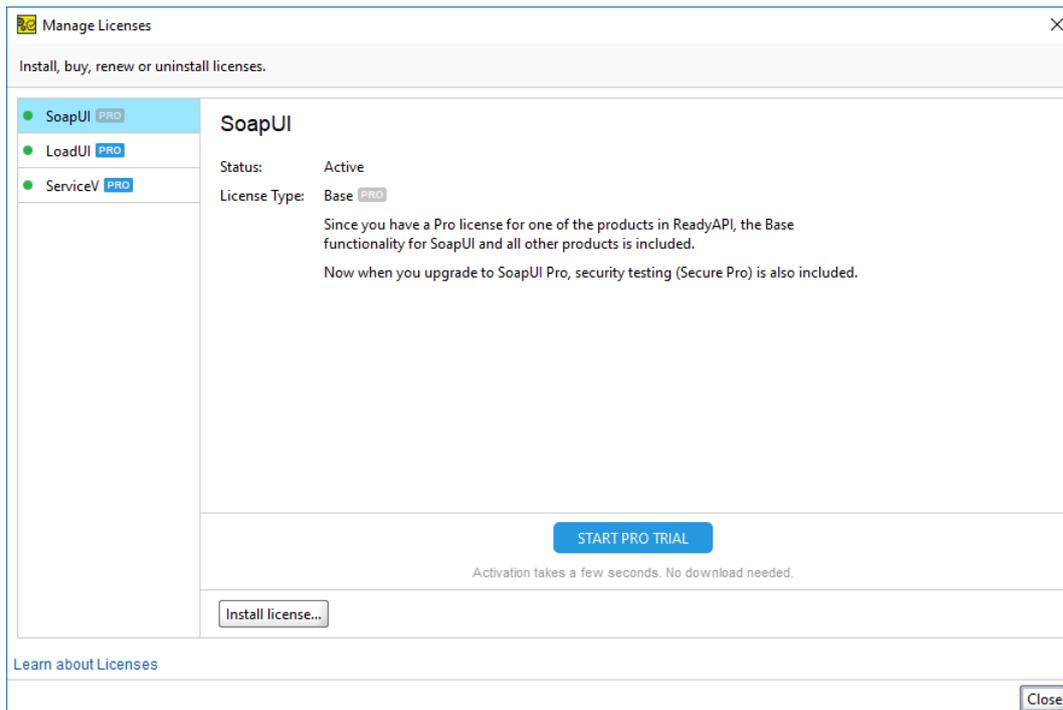
- 固定ユーザー ライセンスは、1 台のコンピューターで 1 人のユーザーが製品を実行することができます。ReadyAPI を使用するコンピューター、またはユーザーを変更するためにライセンスのアクティベーションを解除できる回数は限られています。
- フローティング ユーザー ライセンスは、異なるマシンで複数のユーザーが製品を使用することが可能になりますが、同時に実行できるのは、1 人のユーザーだけになります。

ライセンスの種類に関する詳細は、ReadyAPI の「[ライセンスの種類](#)」を参照してください。

## アクティベーション手順

**License Manager** ダイアログでライセンスをアクティベートします。

このダイアログを開くには、ReadyAPI のメイン メニューから **[Help] - [License Manager]** を選択します。



このダイアログでは、

1. 使用するツールを選択します。
2. 以下のいずれかのボタンをクリックします。
  - **[Start Pro Trial]** : [評価版](#)ライセンスをアクティベートします。
  - **[Buy Renewal]**: SmartBear 社の Shop を開きます。製品版の更新ライセンスを購入することができます。日本のお客様はこのオプションを利用できません。[エクセルソフト株式会社](#)までご購入のご連絡をしてください。
  - **[Install License]**: 新規の[固定ユーザー](#)または[フローティング ユーザー](#) ライセンスをアクティベートします。

- 次に表示されるダイアログボックスの指示に従います。以下のリンクからステップごとの説明をご参照ください。

実際に実行されるステップは、ライセンスの種類によって異なります。

- [評価版ライセンス](#)
- [固定ユーザー ライセンス](#)
- [フローティング ライセンス](#)
- [VirtServer ライセンス](#)

## ライセンスの更新

更新用ライセンスを受け取ると、インストールすることができます。License Manager のダイアログで **[Install License]** ボタンをクリックし、ライセンス ファイル (.zip または .key) を指定します。更新ライセンスの開始日になると、ReadyAPI は以前のライセンスと同じ資格情報と一緒に自動的にアクティベート ダイアログを表示します。ライセンスのアクティベートを解除する場合、両方のライセンスが解除され、ひとつのファイルにエクスポートされます。

更新の購入については、[エクセルソフト株式会社](#)までご連絡ください。

### 注意:

ライセンスをアクティベートすると、ライセンスはそのコンピューターに紐付けられ、ライセンスのアクティベート解除をするまでは、このライセンスを再度アクティベートできません。

- 別のコンピューターにライセンスを移動する場合、まずそのコンピューターでライセンスを[エクスポートし、アクティベート解除](#)をする必要があり、その後で、別のコンピューター上でアクティベートできます。
- システム設定 (ユーザー名、コンピューター名、など) を変更すると、ライセンスを失うことがあります。これを防ぐために、最初にライセンスを解除してから変更して、その後に再度ライセンスをアクティベートしてください。

## 追加のライセンス

ReadyAPI ツールの Pro ライセンスが 1 つあると、そのツールの (Pro 機能を含む) すべての機能のみならず、他のツールの基本機能も使用できます。

ほかのツールの Pro 機能が必要な場合には、そのツールの Pro ライセンスを購入する必要があります。この場合には、既存のライセンスに新しいライセンスを追加します。

ここでは、追加の商用ライセンスをアクティベートする方法を説明します。追加の評価版ライセンスをアクティベートするための情報は、「[評価版ライセンス](#)」を参照してください。

## ライセンスの互換性

ReadyAPI 1.4 以降、同一コンピューター上で固定ユーザー ライセンスとフローティングライセンスを共用できます。たとえば、SoapUI のフローティング ライセンスと ServiceV の固定ユーザーのライセンスを共用できます。

## アクティベーション方法

追加ライセンスのアクティベーションは、新規ライセンスのアクティベーションと同様に行われます。

[固定ユーザー ライセンスのアクティベーション](#)

[フローティング ライセンスのアクティベーション](#)

## ライセンスの種類

### ライセンスについて

評価版ライセンスは、14 日間のライセンスで、ReadyAPI の 1 つのアプリケーションの Pro 版機能のすべてを利用できます。(LoadUI 評価版ライセンスは、Pro 機能を提供しますが、利用できる仮想ユーザー数に制限があります)。

評価版ライセンスは更新できません。製品の評価がさらに必要な場合、[エクセルソフト株式会社](#)までお問い合わせください。評価版ライセンスは、商用ライセンスが使用されたあとでは、適用できません。

**商用 Pro ライセンス**は、1 年間 から 3 年間の期限付きサブスクリプション ライセンスです。ReadyAPI アプリケーションの 1 つの商用ライセンスで、そのツールのすべての機能 (Pro 機能を含む) をアクティベートでき、他のアプリケーションの基本機能を有効にします。たとえば、ServiceV Pro ライセンスは、ServiceV のすべての機能に加えて、SoapUI、LoadUI の基本機能も提供します。

**VirtServer ライセンス** は、他の ReadyAPI ライセンスとは異なり、コンソールからアクティベートされます。評価版および商用ライセンスのいずれも物理マシン、仮想マシン、クラウド マシンでアクティベートできます。

### 固定およびフローティング ライセンスの種類

ReadyAPI には、固定ユーザー ライセンスと、フローティング ライセンスがあります。同じコンピューター上で、別のツールの固定ユーザー ライセンスとフローティング ライセンスを共用できます。

#### 固定ユーザーライセンス

固定ユーザー ライセンスでは、ライセンスをアクティベートした 1 台のコンピューターで 1 人のユーザーのみが製品を実行することができます。ライセンスをアクティベートする

には、[License Manager](#) ダイアログを使用します。ライセンスを使用するコンピューターまたはユーザーを変更するには、ライセンスを移行します。

## フローティング ライセンス

異なるマシンで複数のユーザーが製品を使用することが可能になりますが、同時に実行できるのは、1 人のユーザーだけになります。

フローティング ライセンスをアクティベートするには、[Floating License Server](#) を使用します。

License Manager ダイアログでライセンスをチェックアウトした場合、ReadyAPI はローカル サーバーとの接続先にライセンス情報を保存します。ReadyAPI の開始時に、使用可能なライセンスはサーバーから取得されます。

ReadyAPI の終了時に、ライセンスは解放されます。これにより、別のコンピューター上で同じライセンスが使用可能です。ReadyAPI を 12 時間使用しない場合（アプリケーションを使用しない場合または実行中のテストがない場合を含む）、フローティング ライセンスは自動的に解放されます。再び開始する場合、ライセンスをもう一度取得します。このように、ReadyAPI を使用する時のみライセンスを使用します。

適用したライセンスの使用を停止するには、[License Manager](#) ダイアログでライセンスをチェックインします。この操作により、接続情報が削除されるため ReadyAPI 上でライセンスは自動的に取得されません。

## ツール固有ライセンスおよびバンドル ライセンス

ReadyAPI 製品アプリケーションのうち 1 つのライセンス（たとえば、SoapUI Pro ライセンス）、あるいは、複数のアプリケーションをバンドルしたライセンスを購入することができます。

### ツール固有

各ライセンスは、そのアプリケーションのすべての機能（Pro 機能を含む）と、さらに他のツールの基本機能を有効にします。たとえば、LoadUI Pro ライセンスは、LoadUI の

すべての機能と SoapUI、ServiceV の基本機能を有効にします。これらのルールの Pro 機能が必要な場合は、対応する Pro ライセンスをご購入ください。

## バンドル

バンドル ライセンスは、SoapUI Pro、LoadUI Pro、および ServiceV Pro のすべての機能を有効にします。バンドル ライセンスを持つ LoadUI Pro の同時仮想ユーザーの最大数は 100 に制限されています。

いくつかのツール固有のライセンスが既にインストールされている場合、バンドル ライセンスをインストールすると、これらのライセンスが置き換えられます。ただし、以前のライセンスは解除されず、バンドル ライセンスをアンインストールすると自動的に適用されます。以前のライセンスを別のマシンに移動する場合は、バンドル ライセンスをインストールする前にライセンスを解除してください。

## ライセンスのアクティベーション

ライセンスのアクティベーション手順は、ライセンス タイプにより異なります。詳細については、[アクティベーション](#)を参照してください。

## ライセンスの互換性

ReadyAPI 1.5 からライセンス ファイルの形式が変更されました。この変更のためいくつか互換性の問題があります。

### ReadyAPI 1.5 またはそれ以降でアクティベートされた ライセンスの使用

ReadyAPI 1.5 またはそれ以降でアクティベートされたライセンスは、**ReadyAPI 1.4** またはそれ以前、同様に **SoapUI Pro** とは互換性がありません。ReadyAPI の以前のバージョンでテストを実行するには、

- ・ インストールしたバージョンで[ライセンスのアクティベーションを解除](#)します。オフラインのアクティベーションの場合、アクティベーション解除の電子メールを送信し、その確認を受け取ります。
- ・ 使用するバージョンで[ライセンスをアクティベート](#)します。

新しい形式は、前方（将来）互換なので、ReadyAPI の以降のバージョンを実行するためにそれをアクティベート解除する必要はありません。

### ReadyAPI 1.4 またはそれ以前でアクティベートされた ライセンスの使用

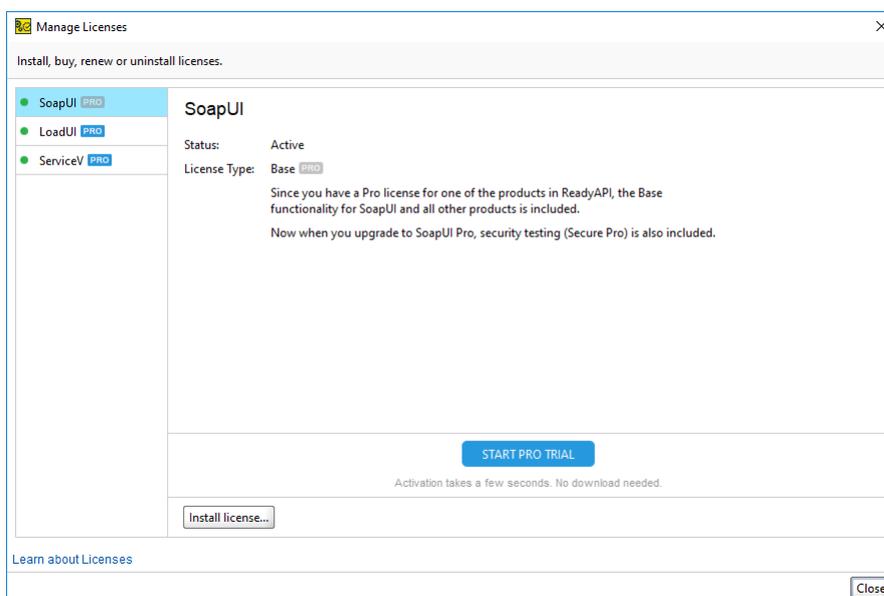
ReadyAPI 1.4 およびそれ以前でアクティベートされたライセンスは、すべての ReadyAPI のバージョンと互換性があり、SoapUI Pro とも互換性があります。

## License Manager ダイアログ

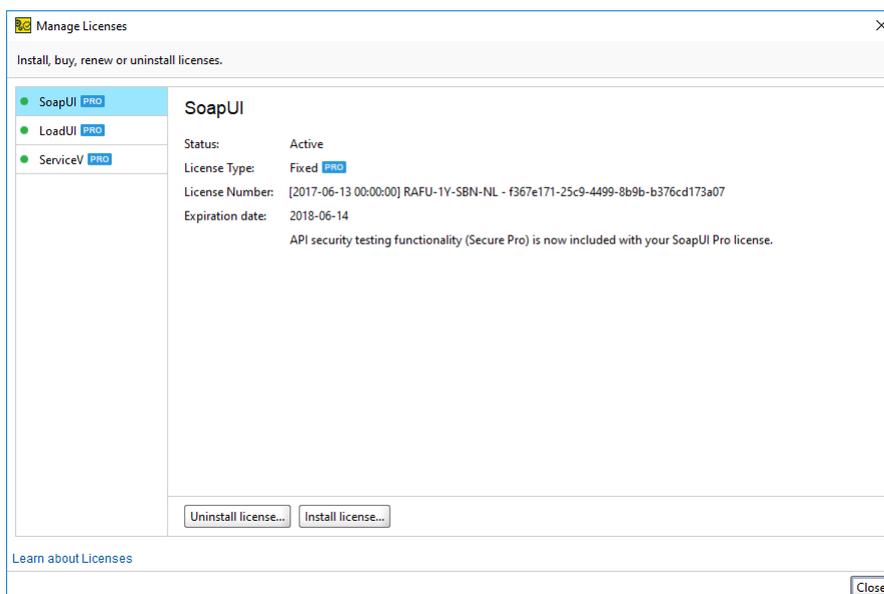
License Manager ダイアログでは、ReadyAPI ライセンスのアクティベート、更新、エクスポートおよびアクティベート解除ができます。

ダイアログの内容は、インストールされたライセンスのステータスによって異なります。

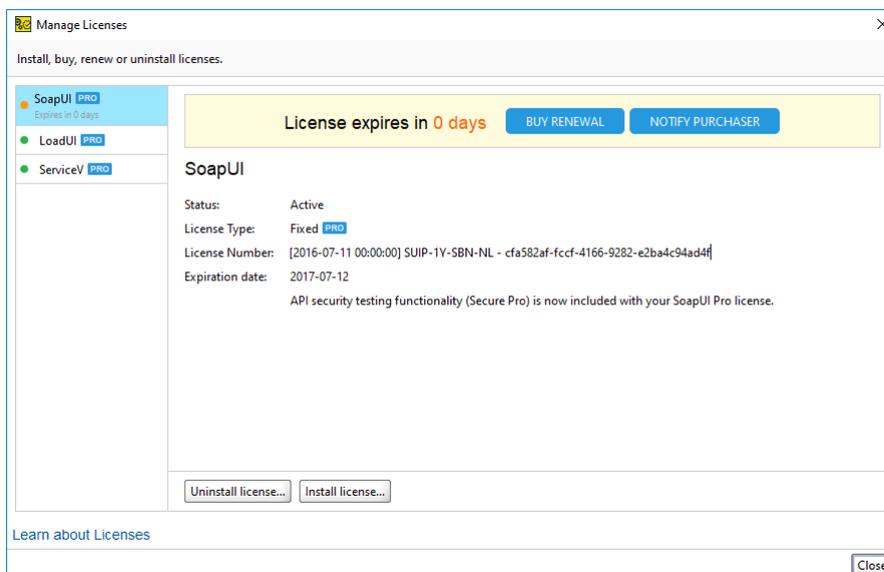
### ライセンスがインストールされていない場合



### ライセンスをインストール済みの場合



## ライセンスが期限切れ間近の場合



ReadyAPI のライセンスがインストールされていない場合、開始時にダイアログが表示されます。

手動で呼び出すには、メインメニューから **[Help] - [License Manager]** を選択します。

ダイアログに利用可能なライセンスの種類がリスト表示されます。アクティベートされたライセンスには、**[PRO]** アイコンが表示されます。

各製品について、ライセンスのステータス、ライセンスの種類、ライセンスキー、有効期限日などの詳細が表示されます。

## ライセンス操作

ライセンスを管理するには、

1. 作業したい製品のページタブに切り替えます。
2. 以下のいずれかのボタンをクリックします。

ボタン	説明
-----	----

<b>Start Pro Trial</b>	評価版ライセンスをアクティベートします。 このオプションは、ライセンスがインストールされていない場合のみ表示されます。
<b>Install License</b>	商用ライセンスをアクティベートまたは更新するための License Activation ウィザードを開きます。商用のフローティングまたは固定ユーザー ライセンスをインストールできます。 まだ有効期限の開始していない更新用ライセンスをインストールできます。 既存のライセンスの有効期限が切れたときに、アクティベートできます。
<b>Check In</b>	フローティング ライセンスを解放します。
<b>Uninstall License</b>	固定ユーザー ライセンスの <a href="#">アクティベートを解除</a> し、ライセンス情報をファイルにエクスポートします。
<b>Buy Renewal</b>	更新ライセンスを購入する場合は、 <a href="#">エクセルソフト株式会社</a> までご連絡ください (期限切れが近い場合、または期限切れになったときに表示されます)。
<b>Notify Purchaser</b>	更新用ライセンスの電子メールを作成します。更新するには、この情報を <a href="#">エクセルソフト株式会社</a> までご連絡ください (期限切れが近い、または期限が切れた場合にのみ表示されます)。

**注意:** 同一コンピューター上で固定ユーザー ライセンスとフローティング ライセンスを利用することが可能です。

## アクティベーション

---

このセクションでは、ReadyAPI ライセンスのアクティベーション方法を説明します。

## 評価版ライセンス

---

評価版ライセンスは、ReadyAPI の 1 つのツールまたは製品全体のすべての機能を 14 日間使用することを許可します。

**注意:** LoadUI 評価版ライセンスは、利用可能な仮想ユーザー数に制限があります。

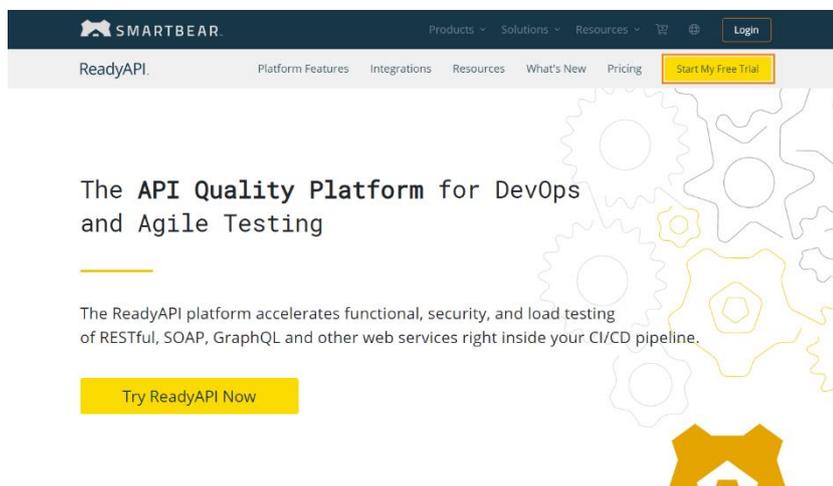
## ReadyAPI のインストール前に評価版を入手

ここでは、ReadyAPI の評価版を入手する方法を説明します。ReadyAPI ツールをすでにインストール済みで、Pro 版のツール機能を試したい場合には、次のセクションで説明する「ReadyAPI から評価版をオンライン アクティベート」を参照してください。

1. SmartBear の Web サイトで、ReadyAPI のページに進みます。

**注意:** ReadyAPI の評価版ライセンスには、SoapUI、LoadUI、Secure および ServiceV の評価版ライセンスが含まれています。特定のツールを評価したい場合、Product ドロップダウン リストからその製品を選択してください。

2. 目的のページで **[Start My Free Trial]** をクリックします。



3. 次のページで、連絡先情報を入力し **[Start Trial]** をクリックします。

4. 続いて、ReadyAPI インストーラーをダウンロードします。

**!** インストーラーのファイル名を変更しないでください。

5. ダウンロードしたファイルを使用して、ReadyAPI をインストールします。詳細については、ReadyAPI の [インストール ガイド](#) を参照してください。

6. コンピューターがインターネットに接続している場合、評価版ライセンスは自動的にアクティベートされます。

コンピューターがインターネットに接続していない場合、[評価版ライセンスのオフラインアクティベーション](#)をご参照ください。

# ReadyAPI 評価版ライセンスのオンライン アクティベーション

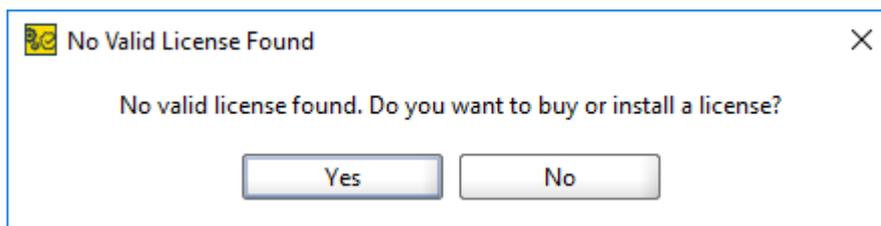
ここでは、ReadyAPI をすでにインストールしている場合にオンラインで評価版ライセンスをアクティベートする方法を説明します。インターネット接続がない場合、または要件を満たしていない場合には、オフラインでアクティベートすることができます。まだ、ReadyAPI をインストールしていない場合には、前のセクションで説明した「[ReadyAPI のインストール前に評価版の入手](#)」を参照してください。

## 要件

- 評価版ライセンスをアクティベートするには、インターネット接続が必要です。
- ネットワークのセキュリティ設定で `https://activation.smartbear.com` サーバーへのアクセスがポート `443` 経由で許可されていなければなりません。
- さらに、SmartBear からライセンス照合リンクを受け取るため、電子メール アドレスを指定する必要があります。

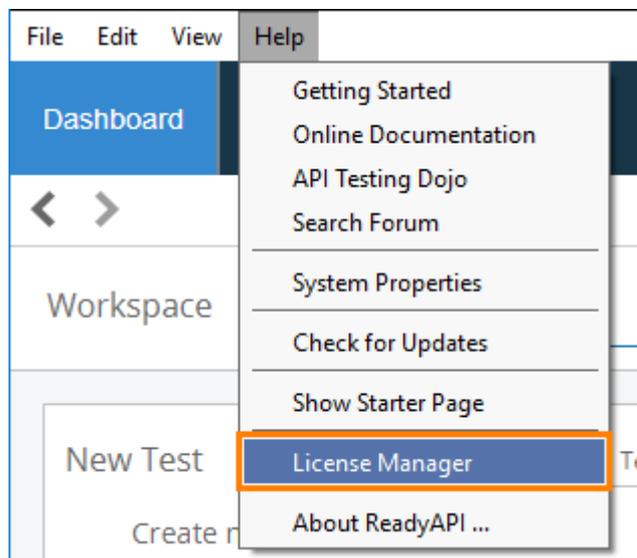
## アクティベーション手順

1. ReadyAPI を起動します。
  - 有効なライセンスがない場合、ライセンスのアクティベートを確認するメッセージが表示されます。



[Yes] を選択します。

- いずれかのツールの有効なライセンスを持っている場合、メインメニューから **[Help] - [License Manager]** を選択します。



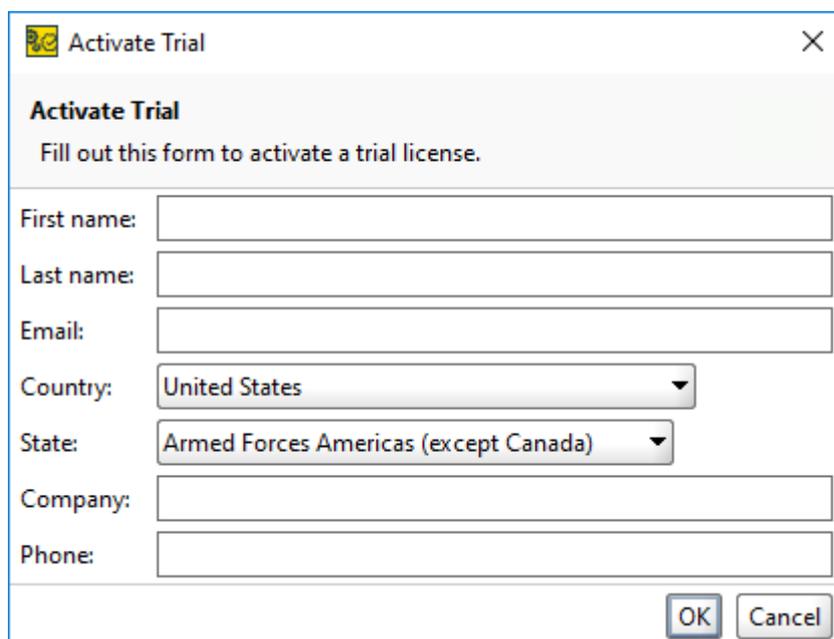
2. [License Manager](#) で目的のツールを選択し、**[Start Pro Trial]** をクリックします。

- License Manager で必要な連絡先情報をすべて入力すると、目的のツール用の評価版ライセンスをアクティベートされます。

そうでない場合、適切なダイアログが表示されます。必要な情報を指定して、**[OK]** をクリックします。

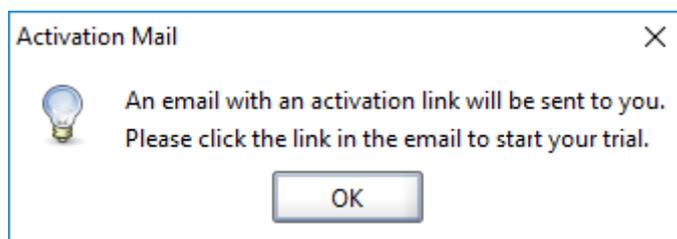
- 有効なライセンスがない場合、さらにいくつかのステップを実行する必要があります。

1. 次の **Activate Trial** ダイアログで、連絡先情報を入力します。

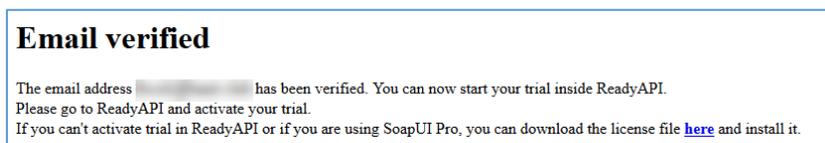


- ❗ **重要:** 照合する必要があるため、有効な電子メール アドレスを入力してください。

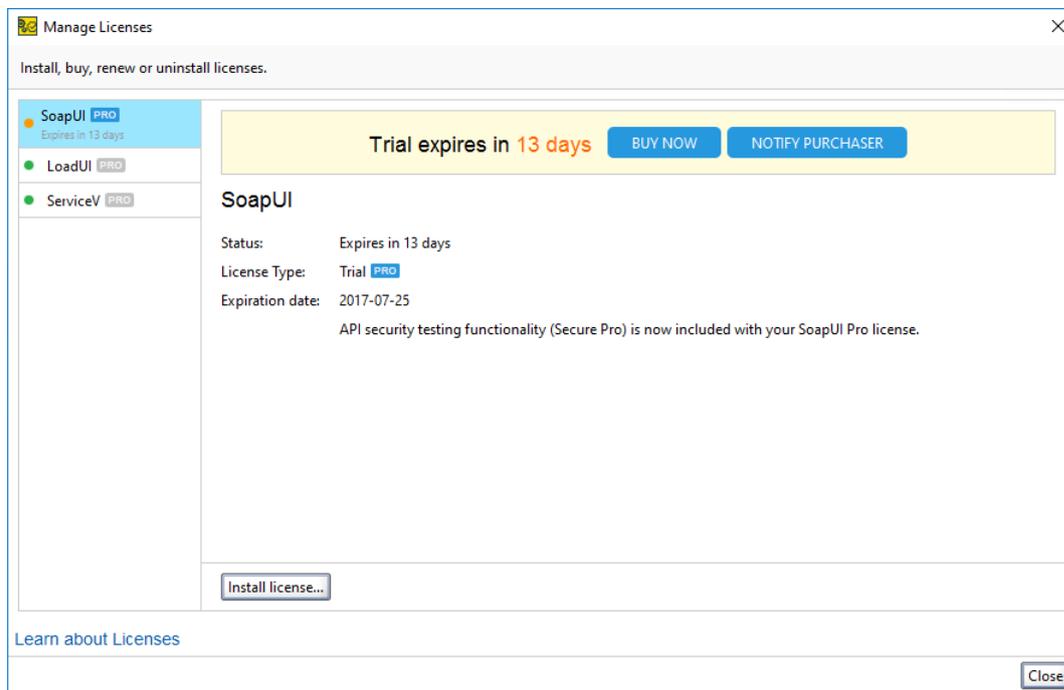
2. **[OK]** をクリックすると、次のダイアログが表示されます。



3. **[OK]** をクリックします。
4. SmartBear のライセンス サーバーにリクエストが転送され、ユーザーには電子メールが送信されます。電子メールには、リクエストを照合して評価版をアクティベートするためのリンクが含まれています。
5. リンクに従います。ブラウザで照合されたメッセージが表示されます。



これで、ライセンスはアクティベートされました。



## 評価版ライセンスのオフライン アクティベーション

コンピューターがインターネット接続されていない場合、オフラインで評価版ライセンスをアクティベートすることができます。

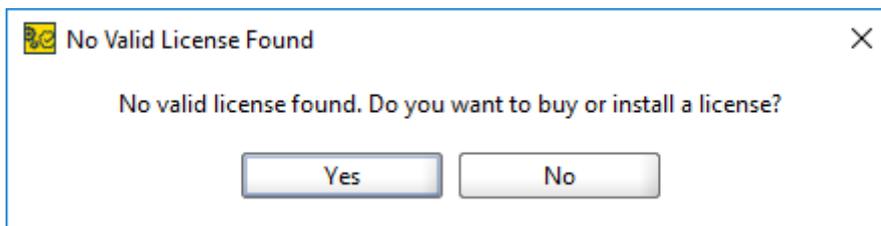
ReadyAPI を利用するコンピューター上で次のステップを実行します。

1. まだ ReadyAPI をインストールしていない場合、インストールします。

Ready API をまだインストールしていない場合は、前述の「ReadyAPI のインストール前に評価版を入手」のセクションをご参照ください。

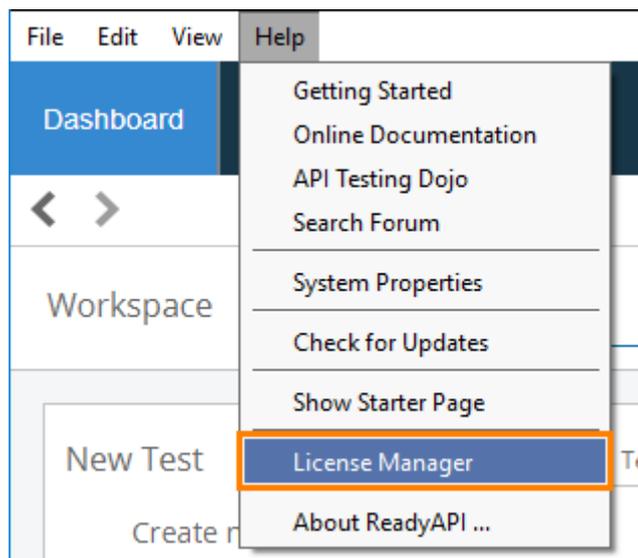
2. ReadyAPI を起動します。

- 有効なライセンスがない場合、ライセンスのアクティベートを確認するメッセージが表示されます。

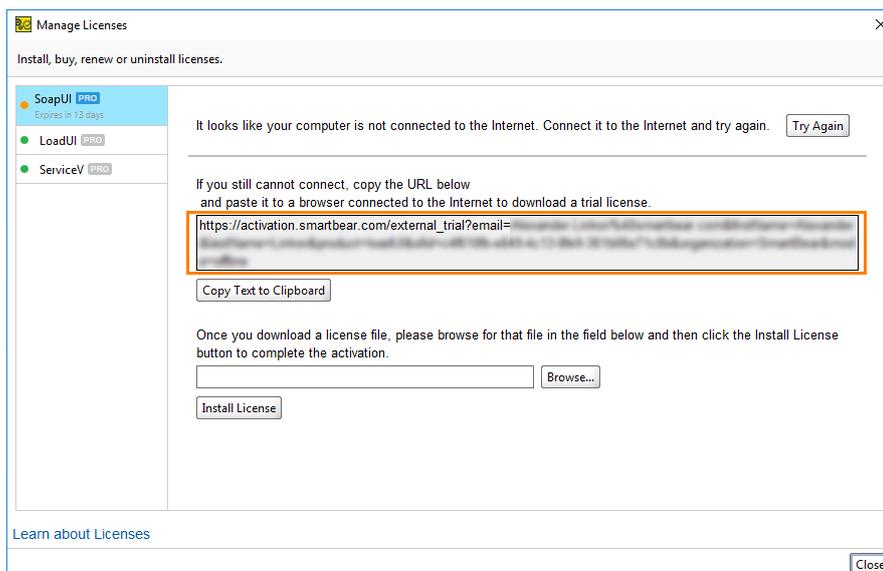


[Yes] を選択します。

- いずれかのツールの有効なライセンスを持っている場合、メインメニューから [Help] - [License Manager] を選択します。

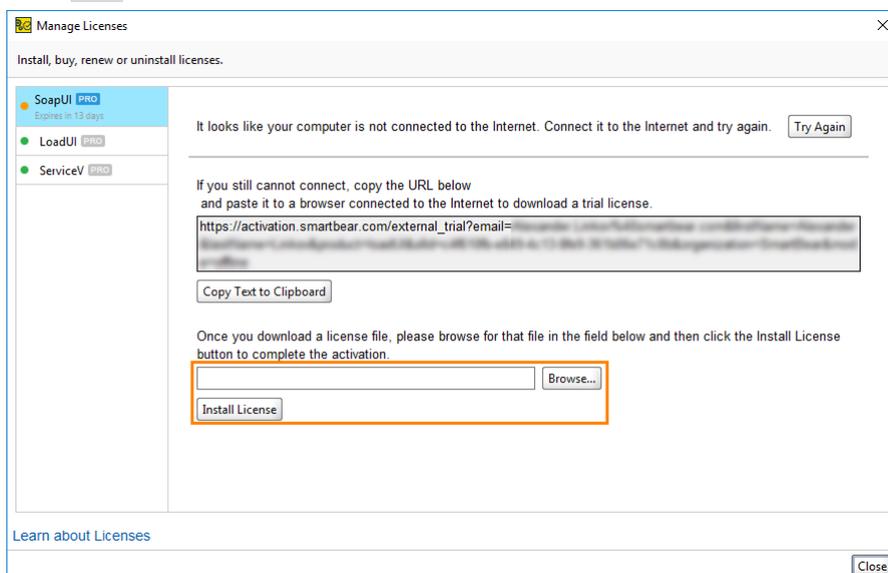


3. [License Manager](#) で、目的のツールを選択し、**[Start Pro Trial]** をクリックします。
4. **License Manager** で必要なすべての連絡先情報が入力されていない場合、適切なダイアログが表示されます。必要な情報を指定して、**[OK]** をクリックします。
5. ご利用のコンピューターがインターネットに接続されていないことが表示されます。**[OK]** をクリックします。
6. ReadyAPI が、評価版用のライセンス ファイルをダウンロードするためのリンクを表示します：

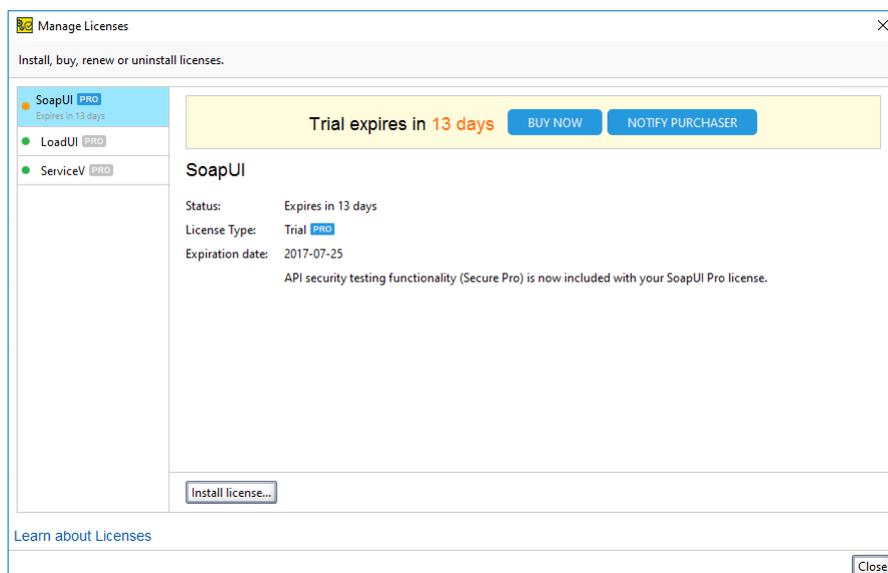


7. ライセンス ファイルをダウンロードするためには、表示されたリンクをコピーして、テキスト ファイルに保存します。このファイルをインターネットに接続しているコンピューターで開き、ブラウザのアドレスバーに貼り付けます。
8. ダウンロードしたライセンス ファイルを ReadyAPI を使用するコンピューターにコピーします。License Manager で、**[Install License]** をクリックし、ダウンロードしたファイルを指定します。

**注意:** ライセンス ファイルを解凍する必要はありません。ライセンス ファイルとして、**.zip** ファイル名を指定できます。



9. ReadyAPI の評価版ライセンスがアクティベートされます。



# 固定ユーザー ライセンスのアクティベーション

---

固定ユーザー ライセンスでは、1 台のコンピューターで 1 人のユーザーが ReadyAPI を使用できます。

ライセンスは、オンラインまたはオフラインのいずれかの方法でアクティベートすることができます。オフラインのアクティベーションに比べて迅速かつ簡単なオンラインでのアクティベーションを推奨します。何らかの理由でオンラインでのアクティベーションが利用できない場合のみオフラインを選択してください。

## ライセンス コードによるオンライン アクティベーション

ライセンス コードによるアクティベートは、ライセンス ファイルによるアクティベーションと少し異なります。

**注意:** エクセルソフト株式会社から購入した場合、ライセンス コードは発行されません。ライセンス ファイルによるアクティベーションをご参照ください。

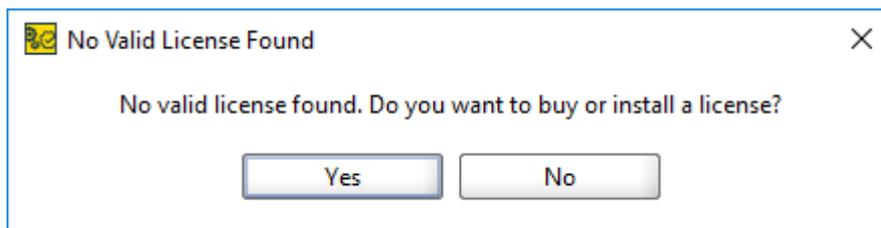
## 要件

- ライセンス コードを使用して、固定ユーザー ライセンスをアクティベートするには、インターネット接続が必要です。
- ネットワークでファイアウォールとプロキシが Web サイト (<https://activation.smartbear.com>) へのアクセスとポート番号 443 を許可していなければなりません。
- さらに、SmartBear からのライセンス照合のリンクを受け取る電子メール アドレスを指定する必要があります。

## ライセンスの適用

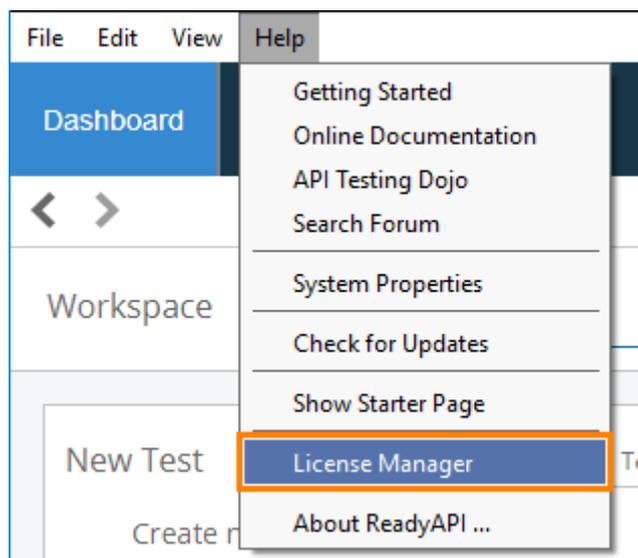
1. ReadyAPI を起動します。

- 有効なライセンスがない場合、ライセンスのアクティベートを確認するメッセージが表示されます。

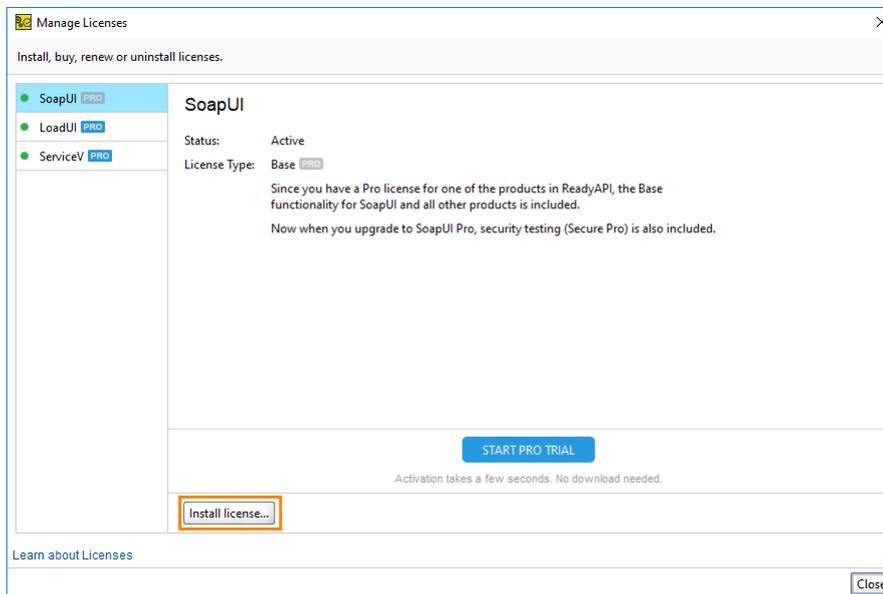


[Yes] を選択します。

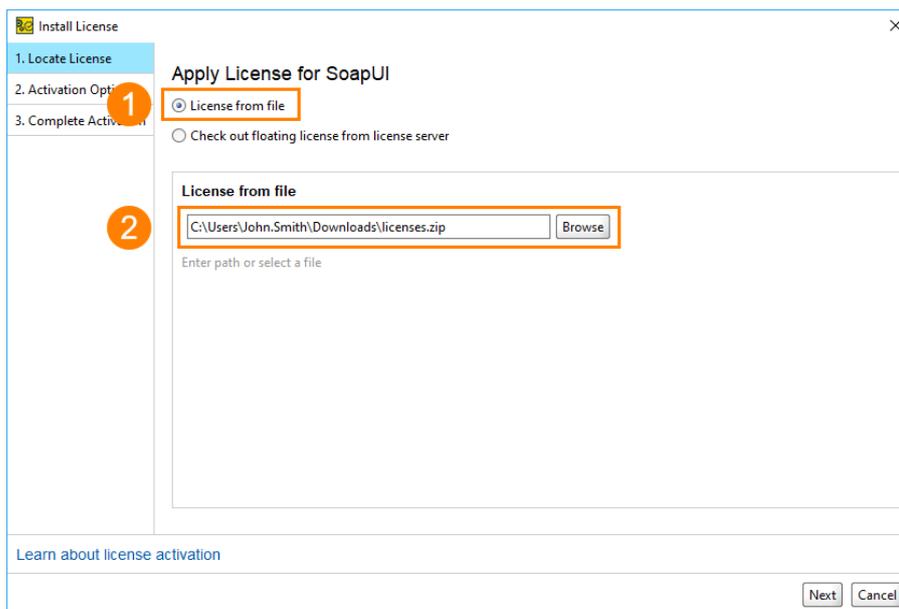
- いずれかのツールの有効なライセンスを持っている場合、メインメニューから [Help] - [License Manager] を選択します。



2. [License Manager](#) ダイアログで、インストールするライセンスのツールを選択し、**[Install License]** をクリックします。



3. **Install License** ウィザードで、**[License from file]** を選択し、**[License from file]** ボックスにライセンスファイルの名前 (.zip または .key) を指定します。ファイル名を入力するか、**[Browse]** をクリックして、後続のダイアログでファイルを選択します。  
**注意:** ReadyAPI ライセンスを注文した後、SmartBear から受信した電子メールメッセージでライセンス ファイルを見つけることができます。  
 ライセンスファイルを解凍する必要はありません。 .zip ファイル名を指定できます。



ヒント: フローティング ライセンスのための操作方法は、「[フローティング ライセンスの適用](#)」で見つけることができます。

4. **[Next]** をクリックします。

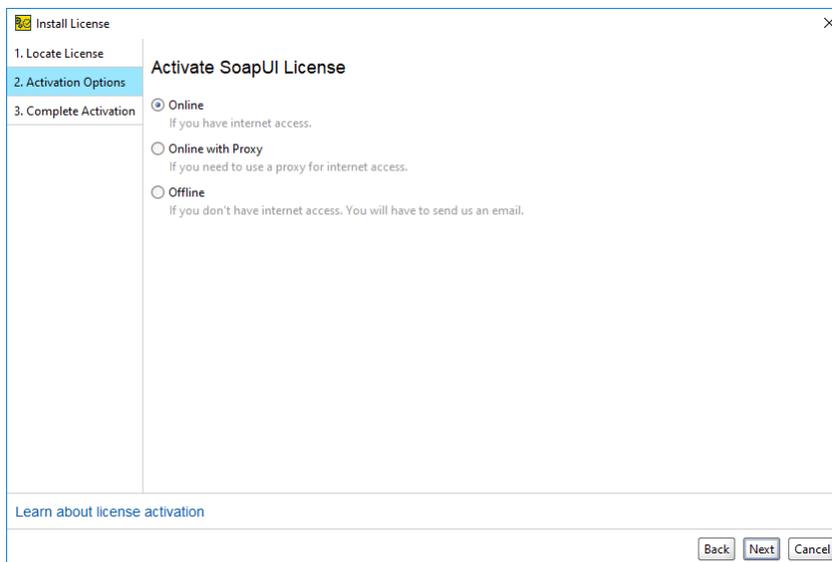
## ライセンスのアクティベーション

**Install License** ウィザードでライセンスをアクティベートする方法を選択します。

1. ウィザードの以下のページで、いずれかの方法を選択します。

- **[Online]** - Web に接続するためにプロキシを使用していない場合。  
– または –
- **[Online with Proxy]** - プロキシ経由で接続する場合は、プロキシ設定を指定する必要があります。

**注意:** どちらのオプションを使うか定かでない場合、またはプロキシ設定について不明な場合には、システム管理者にご確認ください。

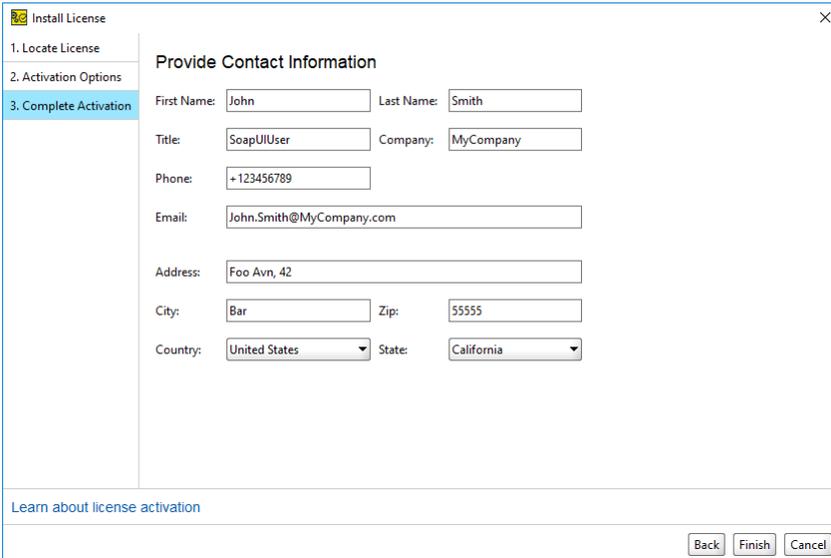


**注意:** **Offline** (オフライン) アクティベーションとは、電子メールを介して SmartBear とデータを交換することを意味します。オンライン アクティベーションを実行できない場合は、このモードを使用します。詳細については、オフライン アクティベーションを参照してください。

2. **[Next]** をクリックします。

## ユーザー情報の提供

下のページで、ユーザー情報を入力します。



The screenshot shows a dialog box titled "Install License" with a close button (X) in the top right corner. On the left, there is a vertical list of steps: "1. Locate License", "2. Activation Options", and "3. Complete Activation", with the third step highlighted. The main area is titled "Provide Contact Information" and contains the following fields:

- First Name: John
- Last Name: Smith
- Title: SoapUIUser
- Company: MyCompany
- Phone: +123456789
- Email: John.Smith@MyCompany.com
- Address: Foo Avn, 42
- City: Bar
- Zip: 55555
- Country: United States (dropdown)
- State: California (dropdown)

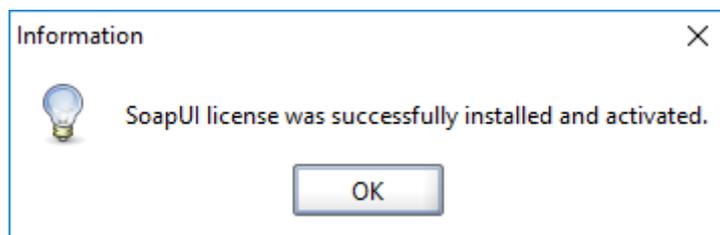
At the bottom left, there is a link: "Learn about license activation". At the bottom right, there are three buttons: "Back", "Finish", and "Cancel".

- ユーザー情報には、ライセンスの購入者でなく、製品を使用するユーザー情報を入力してください。
- すべての項目が必須です。

**[Finish]** をクリックしてアクティベーション プロセスを終了します。

ウィザードがデータをアクティベーション サーバーに送信し、応答を待ちます。

アクティベーションが成功すると、次のメッセージが表示されます。



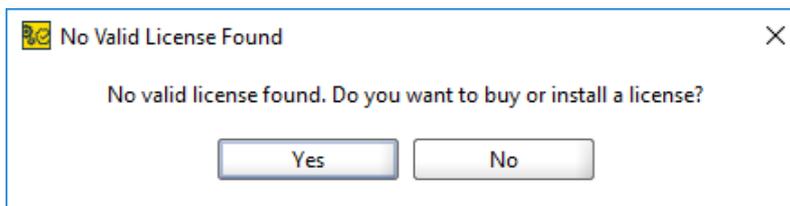
## ファイルによるオフライン アクティベーション

このトピックでは、固定ユーザー ライセンスをオフラインでアクティベートする方法を説明します。このモードは推奨しません。インターネット接続が利用できない時のみ使用するよう to してください。それ以外の場合には、オンラインでアクティベートしてください。

**注意:** フローティング ライセンスも利用できます。

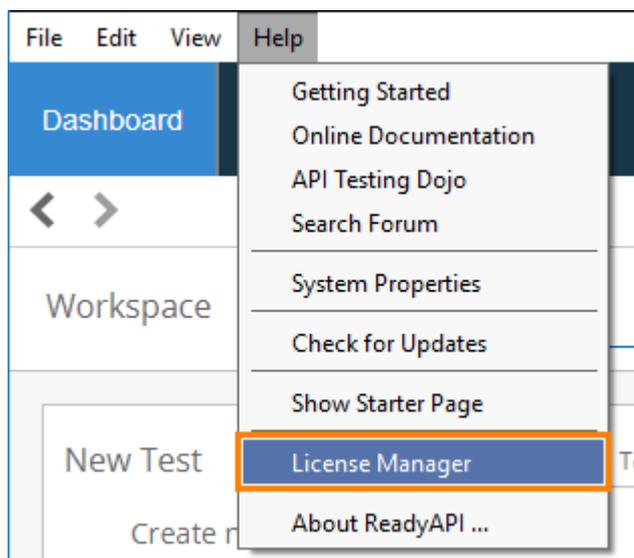
### ライセンスの適用

- ReadyAPI を起動します。
  - 有効なライセンスがない場合、ライセンスのアクティベートを確認するメッセージが表示されます。

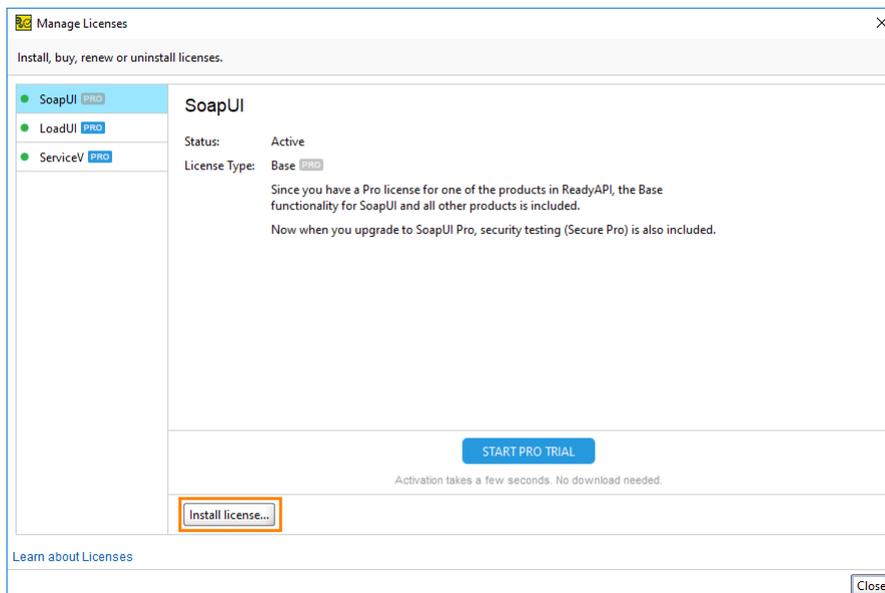


[Yes] を選択します。

- いずれかのツールの有効なライセンスを持っている場合、メインメニューから **[Help] - [License Manager]** を選択します。



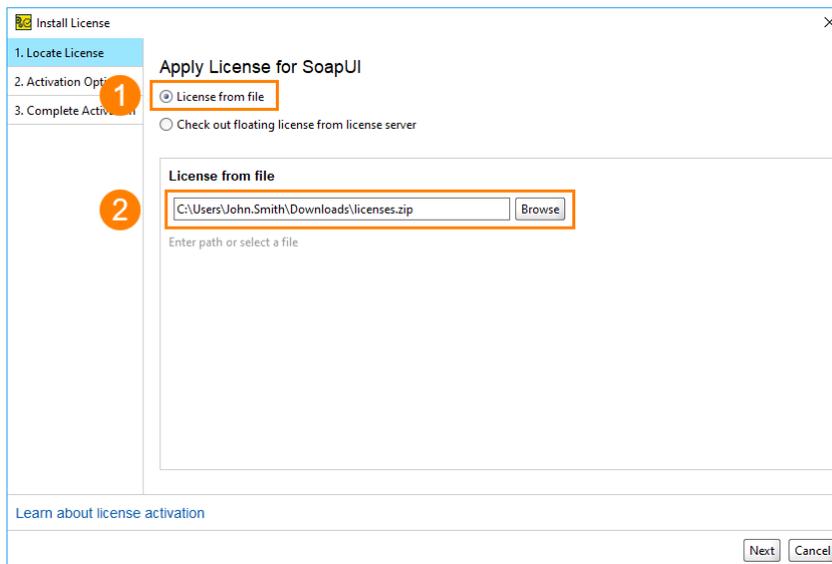
2. [License Manager](#) ダイアログでライセンスをインストールするツールを選択し、**[Install License]** をクリックします。



3. **Install License** ウィザードで **[License from file]** を選択し、**[License from file]** ボックスでインストールしたいライセンス ファイルの名前 (.zip または .key) を指定します。ファイル名を入力するか、**[Browse]** をクリックしてあとに続くダイアログでファイルを選択します。

**注意:** ReadyAPI をエクセルソフト株式会社から購入すると、送付される電子メールにライセンス ファイルが添付されています。

ライセンス ファイルを解凍する必要はありません。 .zip ファイル名を指定できます。



注意: フローティング ライセンスのアクティベーション方法については「[フローティング ライセンスの適用](#)」を参照してください

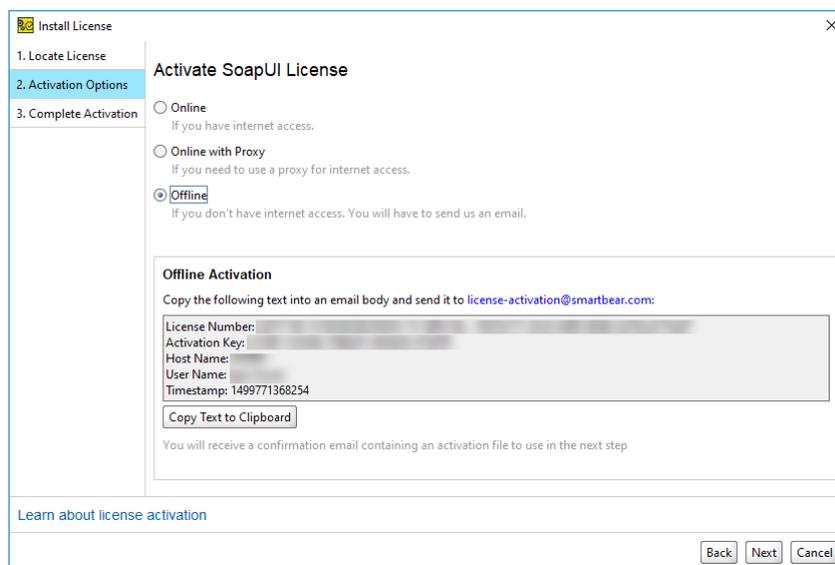
4. **[Next]** をクリックします。

## ライセンスのアクティベート

1. ウィザードの次のページで **[Offline]** を選択します。

注意: **[Online]** および **[Online with Proxy]** オプションはオンライン アクティベーションに対応しています。詳細については、「[ファイルによるオンラインアクティベーション](#)」を参照してください。

- ウィザードには、実行すべき手順と SmartBear ライセンス サーバーに送信する必要があるデータが表示されます。



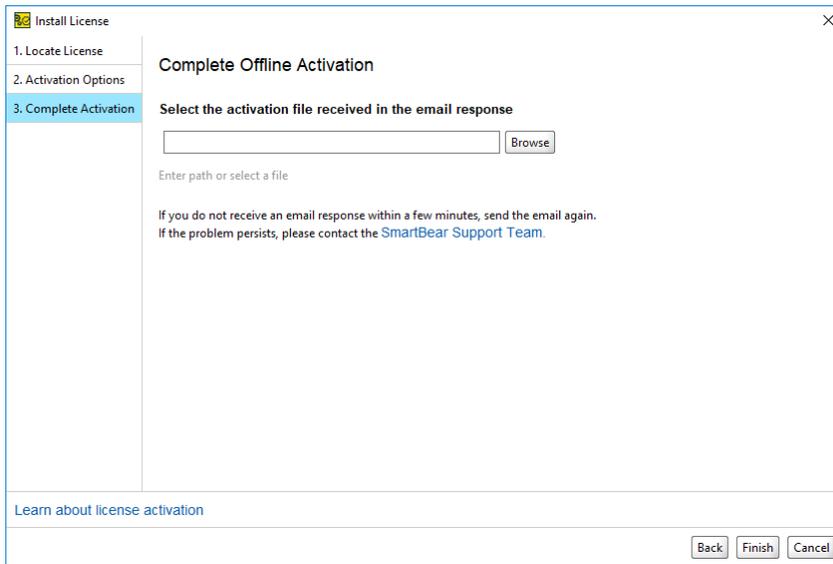
- **[Copy Text to Clipboard]** ボタンをクリックし、表示された情報を Windows アクセサリのメモ帳などに貼り付けて保存します。インターネット接続されている別のコンピュータで電子メール クライアントを開き、新規のメッセージを作成します。
- ウィザードの提供する情報（メモ帳で保存した情報）をメッセージにコピーし、[license-activation@smartbear.com](mailto:license-activation@smartbear.com) に送信します。

**!** SmartBear からアクティベーション キーが添付された電子メールを受信してからアクティベーションを行ってください。通常、数分以内です。メッセージがスパム フォルダーに入っていないか確認してください。

2. SmartBear からアクティベーションに関する電子メールを受け取ったら、添付されているアクティベーション ファイルをハードディスクのディレクトリに保存します。

**!** アクティベーション ファイル名を変更しないでください。エラーが生じる場合があります。

3. **[Next]** をクリックします。
4. 次のページで SmartBear ライセンス サーバーが送信したキー ファイルを指定し、**[Finish]** をクリックしてアクティベーションを終了します。



# フローティング ライセンスのアクティベーション

---

フローティング ライセンス では、1 人のユーザーが複数のコンピューターで ReadyAPI を実行できます。

フローティング ライセンスを使用するには、[Floating License Server をインストール](#)する必要があります。ここでは、サーバーをインストールして設定し、ReadyAPI のフローティング ライセンスをアクティベートする方法を説明します。

ライセンスサーバー自体にはライセンスが必要です。ライセンスサーバーのインストールには、必要なライセンスファイルが含まれています。このライセンスは年 1 回更新されますが、ライセンスサーバーに保存されているファイルを更新する必要があります。更新しないと、ライセンスの有効期限が切れたときにライセンスサーバーの動作が停止します。ライセンスファイルを更新する方法については、「サーバーの更新をスケジュールする」を参照してください。

## フローティング ライセンスの適用

このトピックでは、ライセンス サーバーからフローティング ライセンスを使用する方法を説明します。

### 要件

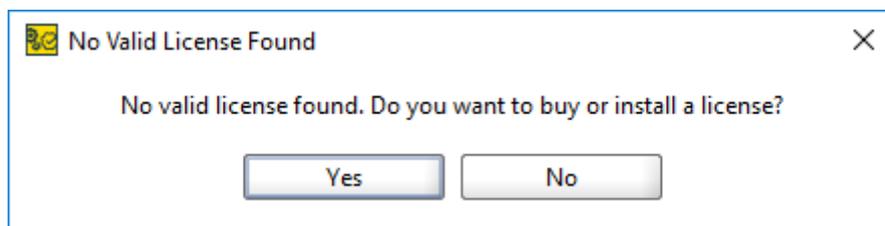
- マシンでフローティング ライセンスをチェックアウトする前に、コンピューターまたはローカル ネットワーク内のマシンにサーバーをインストールして設定する必要があります。詳細については、「[Floating License Server の設定](#)」を参照してください。
- コンピューターがライセンス サーバーにアクセスできる必要があります。ネットワーク内のファイアウォールとプロキシがアクセスをブロックしないようにしてください。

- ファイアウォールを介して Floating License Server にアクセスする場合 (たとえば自宅からあるいはリモート サーバーからなど)、ポート 1099 および 10991 をそれぞれ開放しなければなりません。これらのポートは RMI に使用されます。必要な場合には、システム管理者に連絡してください。

## ライセンスの適用

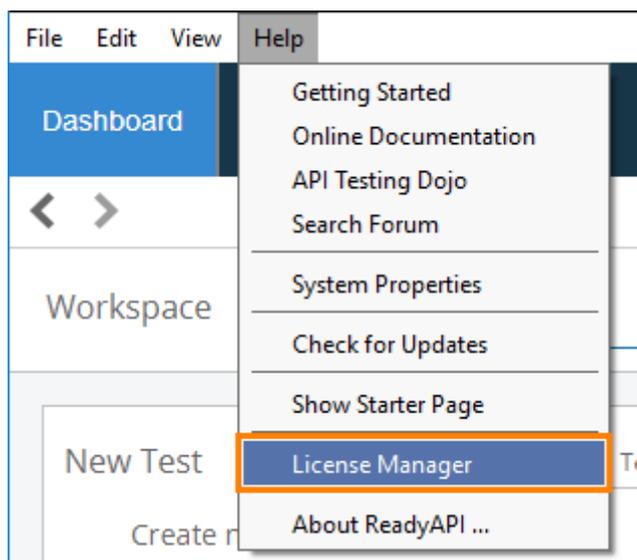
1. ReadyAPI を起動します。

- 有効なライセンスがない場合、ライセンスのアクティベートを確認するメッセージが表示されます。

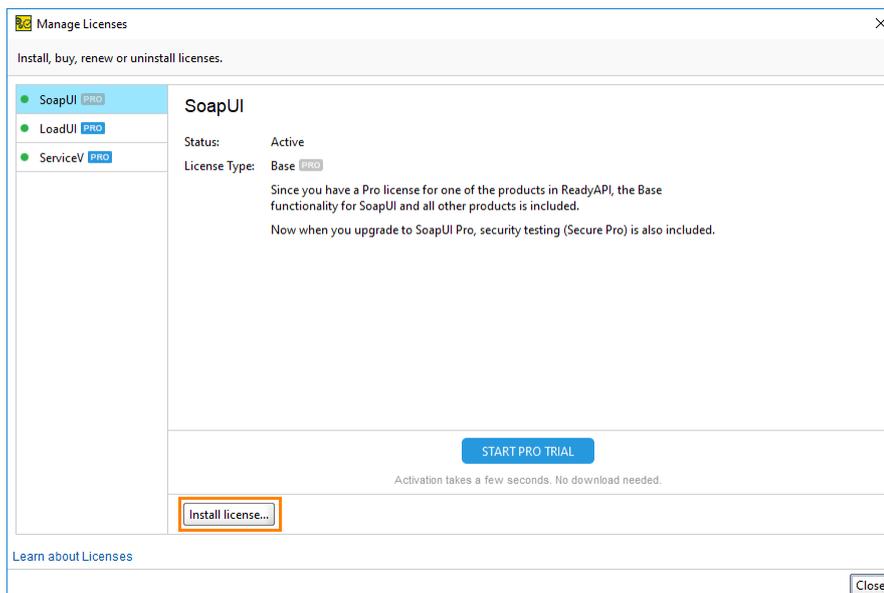


[Yes] を選択します。

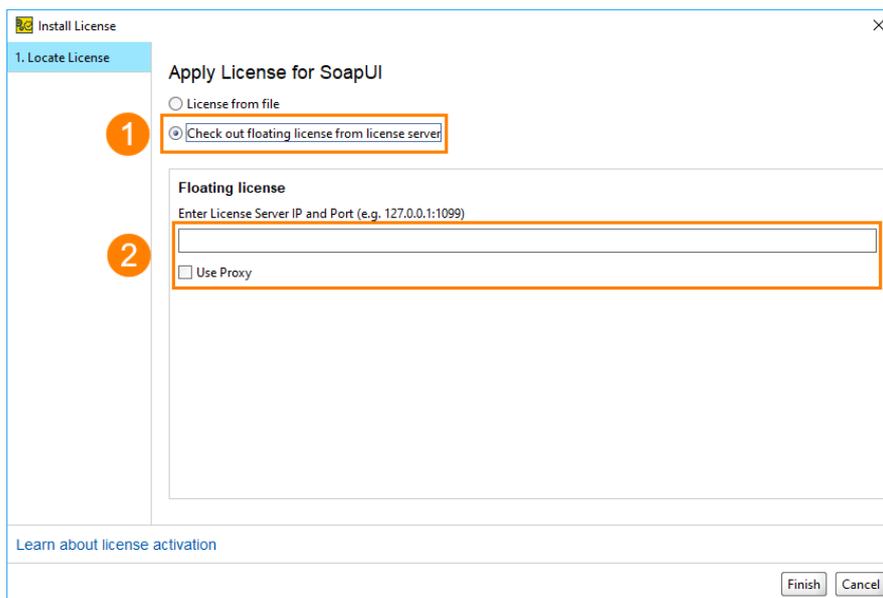
- いずれかのツールの有効なライセンスを持っている場合、メインメニューから [Help] - [License Manager] を選択します。



2. [License Manager](#) ダイアログでライセンスをインストールするツールを選択し、[Install License] をクリックします。



3. ウィザードの最初のページで **[Check out floating license from license server]** を選択します。



**注意:** アクティベーション方法については、「固定ユーザー ライセンスのアクティベーション」を参照してください。

4. サーバーの名前または IP アドレスとポート番号を指定します。プロキシ経由でライセンスサーバーに接続する場合、**[Use Proxy]** を選択してプロキシ設定を指定します。

**注意:** プロキシを使っているかどうか不明な場合には、システム管理者に確認してくだ

さい。

5. **[Finish]** をクリックします。ウィザードが指定のサーバーに接続し、ライセンスをリクエストします。

## License Server のシステム要件

ReadyAPI のフローティング ライセンスを管理およびアクティベートするには、Floating License Server が必要です。ここではインストールと設定の方法を説明します。

### サポートするオペレーティング システム

- ロールアップ更新(KB3125574) が適用された Windows 7 SP1 または、それ以降の Windows オペレーティング システム (32 ビットまたは 64 ビット)。
- ロールアップ更新(KB3125574) が適用された Windows Server 2008 R2 SP1 またはそれ以降の Windows Server オペレーティング システム。
- OS X 10.7.3 (Lion) またはそれ以降の macOS オペレーティング システム。
- OS X Server 10.7 (Lion) またはそれ以降の macOS Server オペレーティング システム。
- 64-bit Oracle Linux 6 またはそれ以降。
- 64-bit Red Hat Enterprise Linux 6 またはそれ以降。
- 64-bit Suse Linux Enterprise Server 10 SP2 またはそれ以降。
- Ubuntu Linux 10.04 またはそれ以降。

### サポートする Java バージョン

ライセンス サーバー ソフトウェアは、Java 8 ランタイム環境 (JRE 1.8.0.181 またはそれ以降) を必要とします。

最新バージョンの Java を下記のサイトからダウンロードできます。

⇒ [Oracle の Web サイト](#)

Java9 および 10 は現在サポートされていません。

## License Server の設定

ReadyAPI フローティング ライセンスを制御およびアクティベーションするには、フローティング ライセンス サーバーが必要です。ライセンス サーバーを設定するには、次の手順を実行します。

1. ライセンス ファイルを取得します。
2. ライセンス サーバーをインストールします。
3. ライセンス サーバーに接続します。
4. ライセンスをインストールし、そこにユーザーを割り当てます。

**注意:** 有効なライセンス サーバーがあり、それを調整する必要がある場合は、ガイドの冒頭をスキップして、サーバーへの接続から始めてください。

**!** 2018 年 6 月 6 日より前にライセンスサーバーをインストールした場合は、ライセンスサーバーが最新であることを確認する必要があります。

フローティングライセンスを制御するために、ReadyAPI は *Protection! Licensing Server* を使用します。

このサーバーは、任意のネットワーク マシンにインストールできます。制御するライセンスが非常に多くない限り、特定のハードウェアは必要はありません。

ヘッドレスマシンでライセンスサーバーを実行する場合は、ライセンスサーバー管理コンソールを使用して構成します。

### 1. ライセンスの取得

ライセンス サーバーをインストールおよび構成するときは、ライセンス ファイルを用意する必要があります。このファイルを入手するには、SmartBear 営業チームにお問い合わせください。ライセンスキーには、ライセンス サーバー コンピューターの **IP アドレス**と、ライセンス要求の処理に使用するポート番号に関するエンコードされた情報が含まれています。ライセンスをリクエストする際に、この情報を営業チームに提供する準備をしてください。デフォルトでは、サーバーはポート 1099 を使用します。何らかの理由でサー

バー コンピューターでこのポートを使用できない場合は、別の使用可能なポートを選択します。

その後、ライセンス ファイルを送信します。ライセンス ファイルは、ライセンス サーバー管理コンソールにインストールする必要があります。

#### **!** 重要な注意事項:

- ライセンスは、ライセンス サーバーの特定の IP アドレスとポートに関連付けられています。別のサーバーでライセンスをアクティベートすることはできません。複数のライセンスサーバーを使用するには、サーバーごとに個別のライセンスファイルが必要です。
- ネットワークで実行されているプロキシとファイアウォールは、指定された IP アドレスとポート (デフォルトでは 1099) でライセンス サーバーへのアクセスを許可する必要があります。
- ライセンス サーバーのツール (SoapUI、LoadUI、ServiceV、VirtServer) ごとに 1 つのライセンスを取得することをお勧めします。シート数を増やしたい場合は、もう 1 つのライセンスをインストールするのではなく、補足ライセンスを使用してください。これにより、ライセンスの使用を簡単に管理できます。補足ライセンスを取得するには、営業担当者にお問い合わせください。

## 2. Protection! Licensing Server のインストール

### 2.1. Java のインストール

Protection! Licensing Server ソフトウェアには、Java ランタイム環境が必要です。

1. 最新の Java 8 バージョンをダウンロードします。次の Web サイトで実行できます。

⇒ <http://www.java.com/en/download/manual.jsp>

**!** 他の Java バージョン (Java 9 およびそれ以降) をサポートしていません。

2. Protection! License Server をインストールするコンピューターにこれをインストールしてください。

## 2.2. Protection! Licensing Server のインストール

サーバー コンピューターに Java をインストールしたら、Protection! Licensing Server をインストールできます。以下の手順に従ってください。

**注意:** ライセンスサーバーのインストールには、ライセンスの管理に必要なライセンス管理コンソールが含まれています。

1. コンピューターがライセンスサーバーの要件を満たしているか確認してください。
2. Protection! Licensing Server をダウンロードします。

	 Windows	 Linux	 macOS
32-bit	<a href="#">Win</a>	<a href="#">Linux</a>	<a href="#">macOS</a>
64-bit	<a href="#">Win</a>		

**!** ソフトウェアをダウンロードすることにより、利用規約とプライバシーポリシーに同意したことになります。

4. ダウンロードしたインストーラーを実行し、インストール ウィザードの指示に従います。

ライセンスサーバーを使用する前に、設定する必要があります。下記を参照してください。

## 3. ライセンス サーバーへの接続

ライセンス サーバーを構成するには、Protection! License Management Console を使用してライセンスサーバーに接続します。ライセンスサーバーを初めて構成する場合は、次の手順を実行します。

1. 必要に応じて、ライセンスサーバーのポートを開きます。
2. 接続を作成します。
3. ライセンスサーバー接続します。

### 3.1. ポートを開く

デフォルトでは、ライセンスサーバーは次のポートを使用します。

ポート	説明
1099	ライセンスサーバーはこのポートを使用して、ライセンス要求を処理します。ライセンスを要求するときにこのポートを指定しました。  ライセンスはこのポート番号にバインドされています。このポートを変更する場合は、別のライセンスファイルを要求する必要があります。
10991	ライセンスサーバーがライセンス リクエストにデフォルトで使用する別のポート。必要に応じて、ライセンスサーバーの設定でポート番号を変更できます。
9998 と 9999	Protection! License Management Console はこれらのポートを使用してライセンスサーバーと通信します。必要に応じて、ライセンスサーバー設定で他のポートを選択できます。

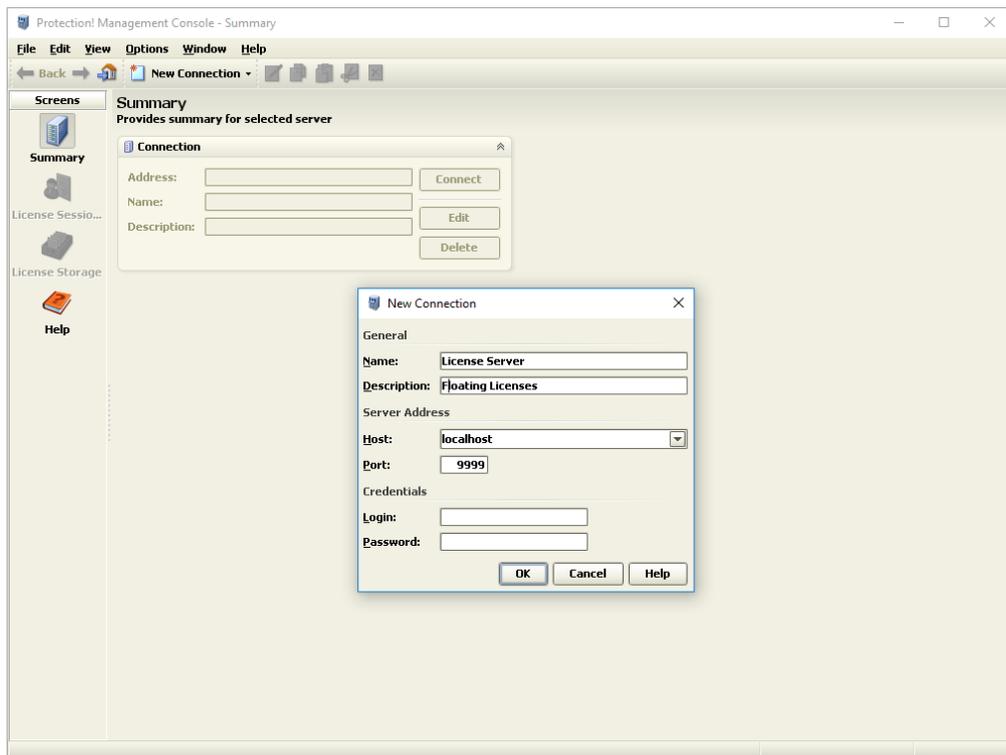
**!** ファイアウォールとプロキシがこれらのポートを介してライセンスサーバーに接続できることを確認してください。多くの場合、これらのポートはすでに開いています。

これらのポートが開いているかどうかわからない場合、またはプロキシの設定でサポートが必要な場合は、システム管理者に問い合わせてください。行った変更を適用するには、ライセンスサーバーを再起動する必要があります。他のポートを指定する方法については、[Protection! License Server Administrator Guide \(pdf\)](#) を参照してください。

### 3.2. 接続の作成

1. Protection! Management Console を起動します。

接続を作成する画面が表示されます。



## 2. 収集パラメーターを指定します。

- **Name** (サーバー名) とオプションの **Description** (説明) を入力します。
- **Server Address** を入力します。

Management Console は、ヘッドレスコンピューターを含む他のほとんどのコンピューターで動作するライセンス サーバーを構成できます。

**注意:** Management Console とライセンス サーバーが同じマシン上にある場合、このフィールドは localhost のままにします。

- **Port** 番号を入力します(デフォルトは 9999 です)。
- **Login** と **Password** を入力します。

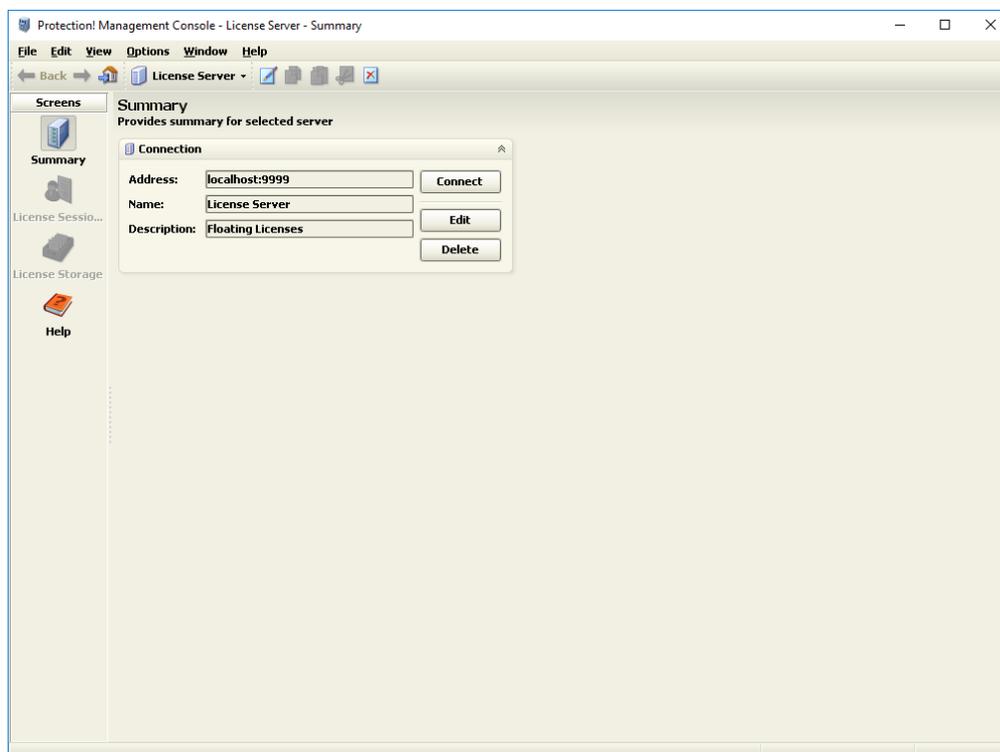
**注意:** デフォルトの資格情報は –  
 Login: *admin*  
 Password: *{empty}*

- **OK** をクリックします。

後で、Management Console で資格情報を変更できます。

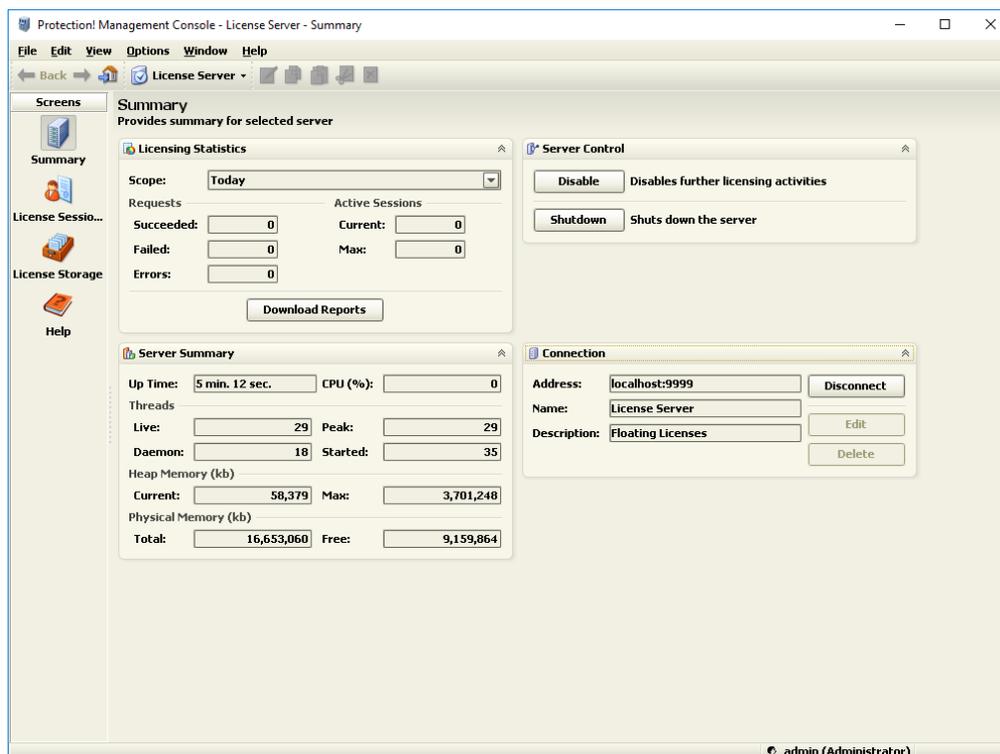
### 3.3. ライセンスサーバーに接続する

1. サーバー Management Console で、[Summary] ビューに切り替えます。



2. **Connect** をクリックしてサーバーに接続します。

サーバーの要約統計が表示されます。



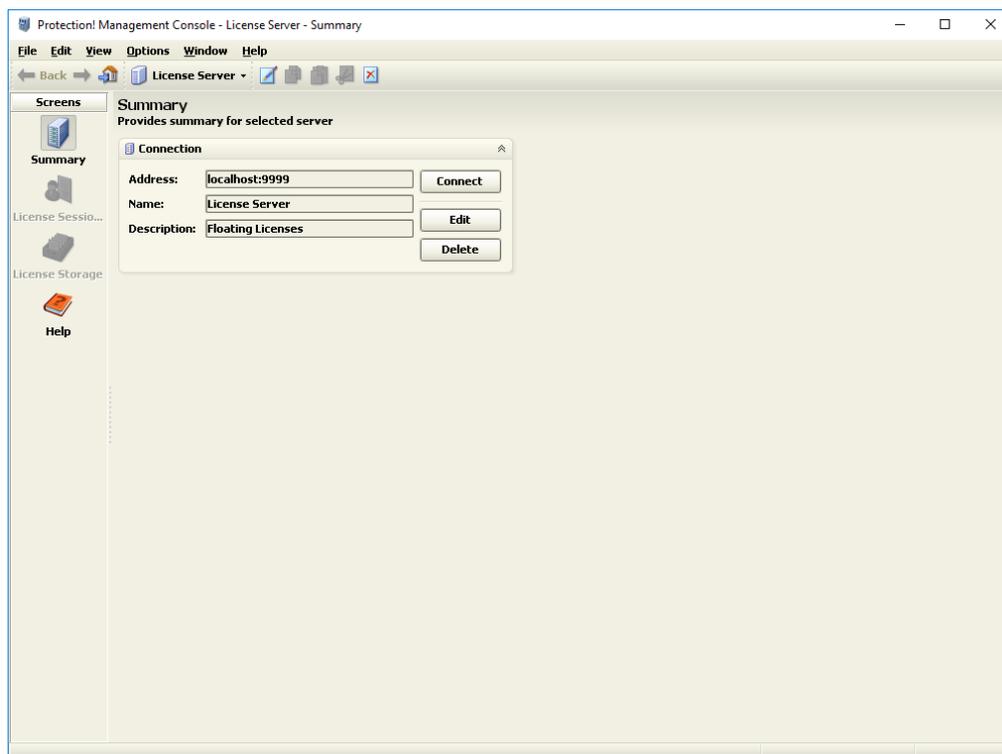
## 4. ライセンスのインストール

1. ライセンス ファイルのインストール
2. ライセンスをユーザーに割り当て

**!** 重要: 少なくとも 1 人のユーザーまたはユーザーグループにライセンスを割り当てる必要があります。 そうしないと、誰もライセンスを使用できなくなります。

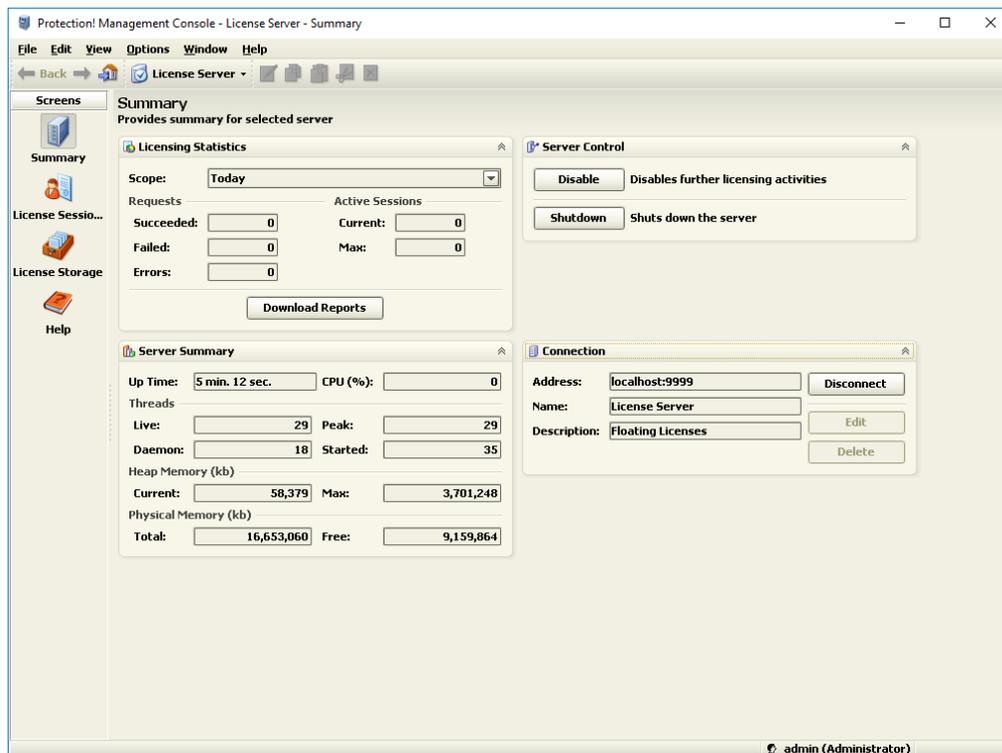
### 4.1. ライセンス ファイルのインストール

1. ライセンスファイルを .zip アーカイブで受け取った場合は、アーカイブからコンピューター上のディレクトリに解凍します。
2. サーバー Management Console で、Summary ビューに切り替えます。

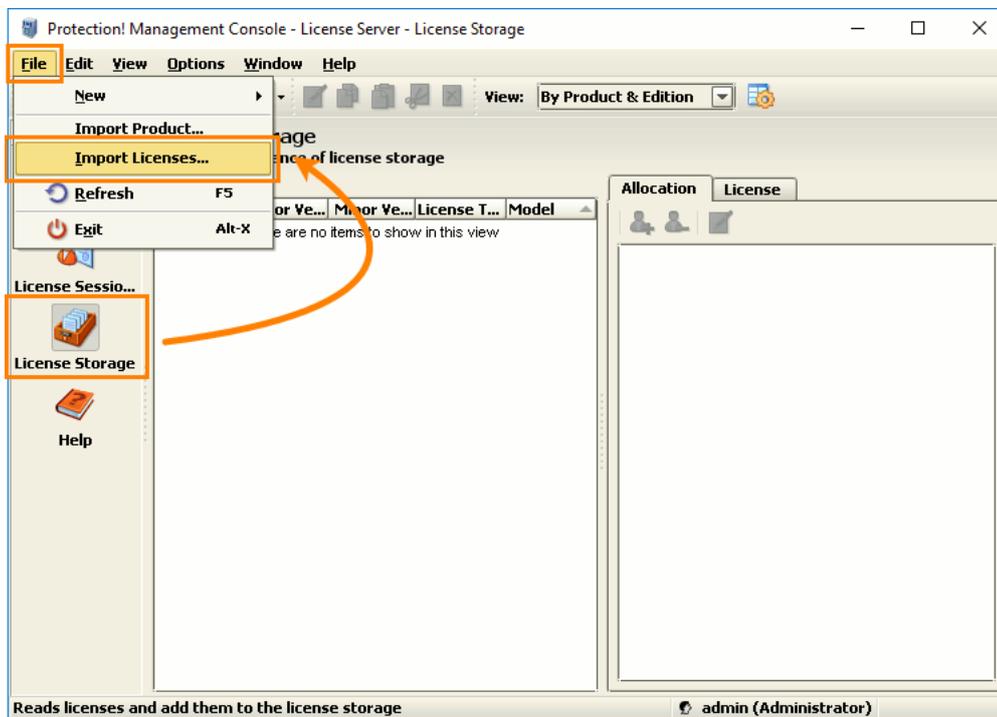


3. **Connect** をクリックして、サーバーに接続します。

サーバーのサマリー統計が表示されます。

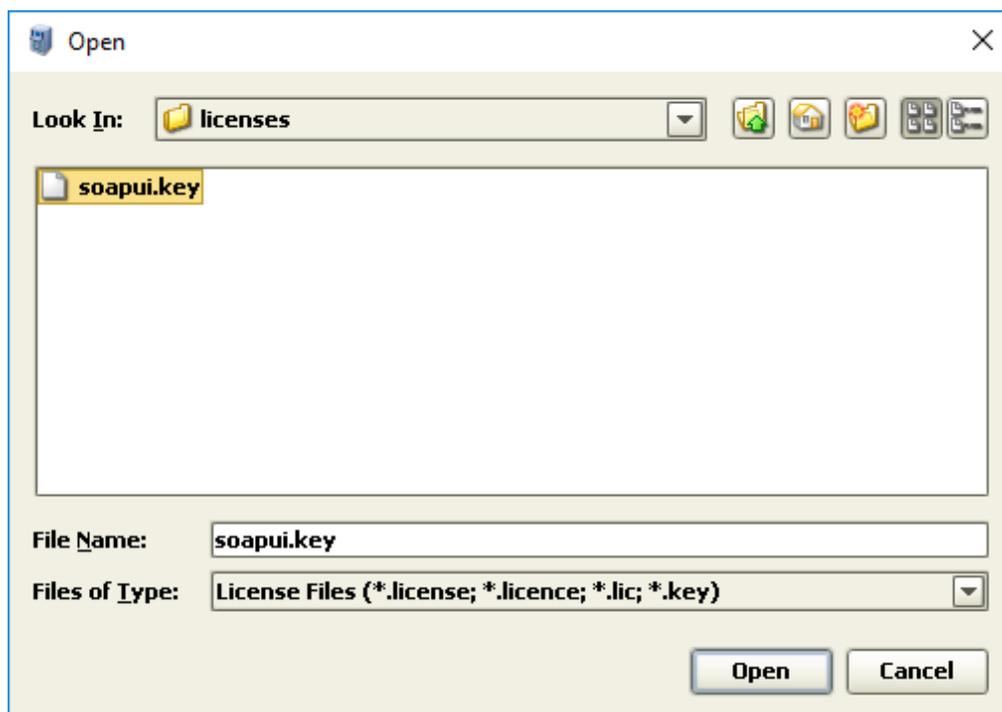


4. 左側のメニューで、**License Storage** を選択します。次に、メインメニューから **File > Import Licenses** を選択します。



5. 続いて、**Open File** ダイアログで、SmartBear から受け取ったライセンスファイルを選択し、**Open** をクリックします。

注意: SmartBear から .zip ファイルを受け取った場合、ダイアログで、抽出したライセンスファイルを指定する必要があります。



これで、サーバーコンピュータにライセンスがインストールされます。

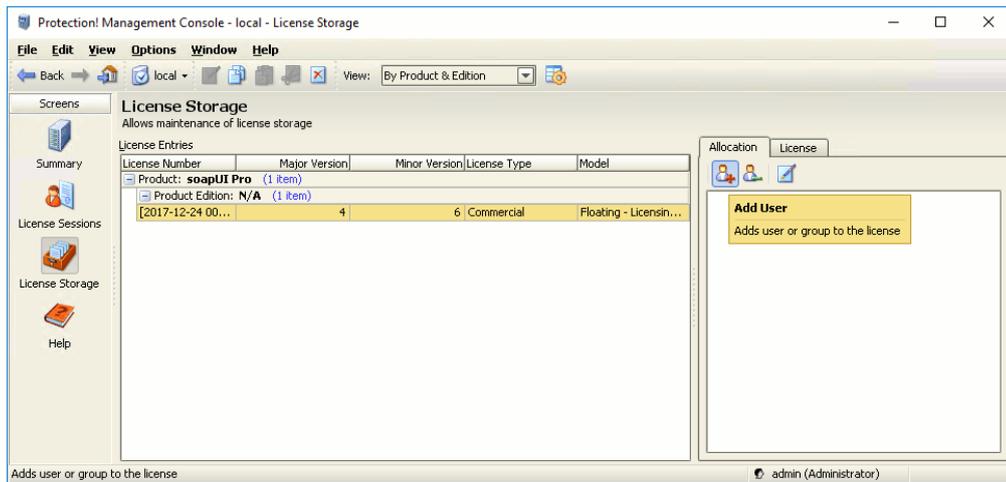
## 4.2. ライセンスをユーザーに割り当てる

ユーザーにライセンスへのアクセスを提供するには、インストールされたライセンスをユーザーに割り当てる必要があります。これを行う最も簡単な方法は、デフォルトで使用可能な Everyone ユーザーグループにライセンスを割り当てることです。これにより、ライセンスサーバーに接続するすべてのユーザーがライセンスを利用できるようになります。

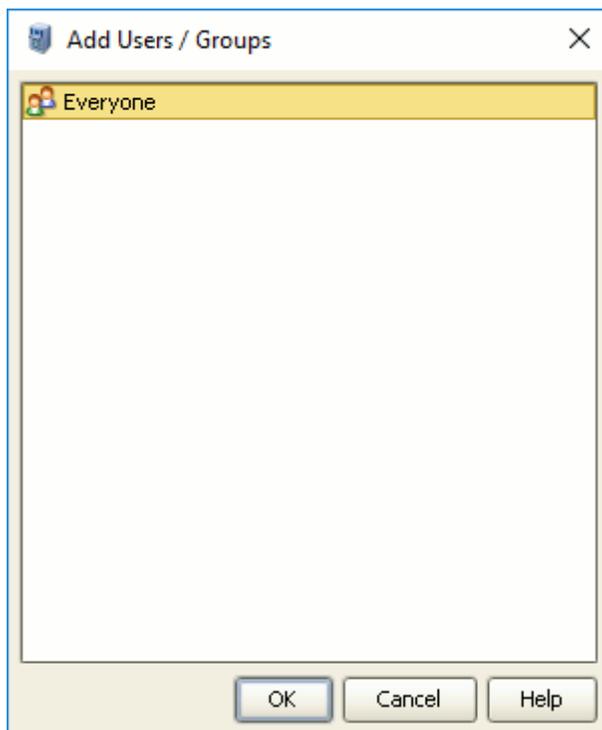
さらに制御が必要な場合は、ライセンスサーバーで作成した個々のユーザーまたはユーザーグループにライセンスを割り当てることができます。ネットワークで使用可能な LDAP サーバー (Lightweight Directory Access Protocol) からユーザーにライセンスを割り当てることもできます。詳細については、「ユーザーとグループの管理」を参照してください。

ライセンスをユーザーに割り当てるには:

1. **License Entries** リストからライセンスファイルを選択し、右側の Allocation タブのツールバーで、**Add User** をクリックします。

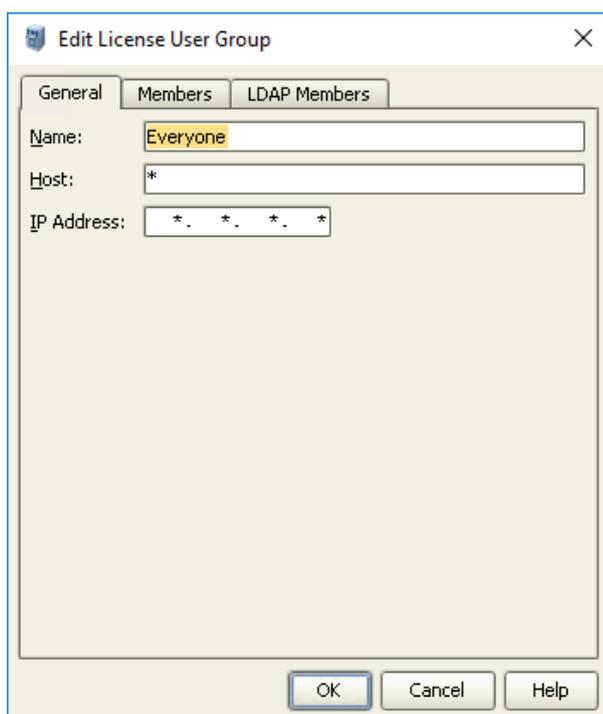


2. 次のダイアログが表示されます。



3. 目的のグループを選択し、**OK** をクリックします。

**注意:** 割り当てられたユーザーまたはグループをダブルクリックして、構成を確認できます。たとえば、**Everyone** グループには次の構成があります。



これで、選択したライセンスがネットワーク内の指定されたユーザーに利用可能になります。

ライセンスサーバーがインストールされ、ライセンスを制御するように構成されました。

## ライセンスサーバーが最新であることを確認

Protection! License Server が機能するには、ライセンスが必要です。これはサーバー自体のライセンスであり、ReadyAPI のライセンスではありません。ライセンスファイルはインストールパッケージに含まれています。

**!** 2018年6月6日より前にライセンスサーバーをインストールし、ライセンスを更新していない場合は、まもなく期限切れになります。この場合、最新のライセンスファイルがあることを確認する必要があります。ライセンスをすぐに更新することもできます。

### ライセンスを更新する必要がありますか？

最新のライセンスファイルを持っていることを確認するには、次の手順を実行します。

1. [SmartBear web サイト](#)からライセンス マネージャー パッケージをダウンロードします。

注意: License Manager には、Java 8 (JRE 1.8.x.x) が必要です。

2. ライセンスサーバーインストールの bin フォルダーへのパスを指定する `-o` パラメーターを使用して、License Manager を解凍して実行します。

```
<Java>/bin/java.exe -jar ready-api-license-manager-1.2.7.jar
-o <ProtectionLS>/bin
```

3. 可能性のあるメッセージ

メッセージ	説明
<i>You are using the latest license</i>	ライセンスファイルを更新する必要はありません。
<i>Your license needs to be updated</i>	<a href="#">ライセンスファイルを更新する</a> 必要があります。
<i>License file was not found</i>	ライセンス マネージャーがライセンスファイルを見つけることができませんでした。ライセンスサーバーへの正しいパスを指定しているか確認してください。

## 最新のライセンスを取得

ライセンスサーバーがインストールされているコンピューターがインターネットに接続されていると仮定します。そうでない場合は、以下の対応する指示を参照してください。

更新されたライセンスファイルを取得するには:

1. ライセンスサーバー インストールの bin フォルダーへのパスを指定する `-u` パラメーターを使用して、ライセンス マネージャーを解凍して実行します。

```
<Java>/bin/java.exe -jar ready-api-license-manager-1.2.7.jar
-u <ProtectionLS>/bin
```

プロキシサーバーを使用する場合は、`http.proxyHost` と `http.proxyPort` システム プロパティを指定します。

```
<Java>/bin/java.exe -Dhttp.proxyHost=proxy-address
-Dhttp.proxyPort=proxy-port -jar ready-api-license-manager-
1.2.7.jar -u <ProtectionLS>/bin
```

**Windows ユーザーの場合:** ライセンスサーバーが Program Files ディレクトリにインストールされている場合、管理者権限が必要になる場合があります。

2. ライセンス サーバーを再起動します。

ライセンスサーバーが **Web** に接続されていない場合...

ライセンスサーバー コンピューターがインターネットに接続されていない場合、インターネットに接続している中間マシンを見つけてライセンス ファイルをダウンロードする必要があります。

1. 中間コンピューター上:

- SmartBear Web サイトから License Manager.jar をダウンロードし、
- この .jar を実行して、ライセンス ファイルを中間マシンのフォルダーにダウンロードします。

```
<Java>/bin/java.exe -jar ready-api-license-manager-1.2.7.jar -u <some-folder>
```

必要に応じて、プロキシ アドレスとポートを指定します。(上記を参照)。

2. ダウンロードしたライセンスファイル (ProtectionLS.license) をライセンスサーバー コンピューターの <ProtectionLS>/bin フォルダーにコピーします。

**!** 既存のライセンス ファイルを置き換える必要があります。必要に応じて、既存のファイルのバックアップを作成できます。

3. ライセンスサーバーを再起動します。

## サーバーの詳細設定

場合によっては、ライセンスサーバーに接続するときに問題が発生することがあります。たとえば、別のドメインからサーバーにアクセスすると発生する可能性があります。この問題を修正するには、ホスト名を明示的に指定する必要があります。

1. ライセンスサーバーのインストールフォルダーにある bin/server.xml ファイルを開きます。

2. `server` エLEMENTの `hostName` 属性にサーバー コンピューターの名前を指定します。例えば

#### [XML](#)

```
<server hostName="licenseserver" port="1099" exportPort="10991"
mgmtPort="9999" mgmtExportPort="9998" allowRestart="false">
...
```

ファイルを保存します。

3. ライセンスサーバーを再起動します。

## ライセンスサーバーの再起動

ライセンスサーバーを再起動する必要がある場合、次の手順を実行します。

### Windows

1. コントロールパネルを開きます。
2. システムとセキュリティ > 管理ツールを選択します。
3. サービス ユーティリティを開きます。
4. **ProtectionLS** サービスを右クリックし、再起動を選択します。

### Linux および MacOS

1. ターミナルを開き、作業ディレクトリをライセンスサーバー インストールの bin ディレクトリに設定します。
2. 次のコマンドを実行します。

```
ProtectionLS restart
```

## 次のステップ

サーバー上でフローティング ライセンスをアクティベートしたら、ReadyAPI を利用するコンピューター上でライセンスをチェックアウト（消費）する必要があります。「[フローティング ライセンスの適用](#)」を参照してください。

## ユーザーおよびグループの管理

ユーザーがライセンスを利用できるようにするには、ライセンスサーバーで作成されたユーザーにそのライセンスを割り当てる必要があります。Licensing Server Management Console (ライセンスサーバー管理コンソール) でユーザーアカウントを作成するか、サーバーがユーザーアカウントに関する情報を保存する構成ファイルを変更できます。さらに、LDAP サーバーに登録されているユーザーアカウントにライセンスを割り当てることができます。ここでは、これらすべてのアプローチについて説明します。

## 管理コンソールを使用

ライセンスサーバーでユーザーアカウントとユーザーグループを作成、変更、削除するには、ライセンスサーバー管理コンソールを使用します。

**注意:** 必要に応じて、LDAP サーバーからユーザーアカウントをインポートできます。ユーザーアカウントの作成を自動化するには、ライセンスサーバーが使用する構成ファイルの変更を検討してください。

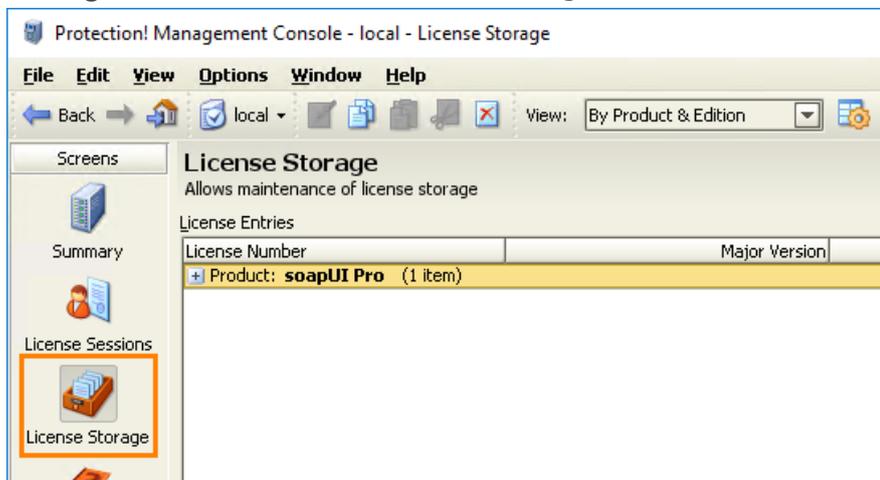
## 管理コンソールの実行

管理コンソールの実行可能ファイルは、<Protection! Licensing Server installation>¥bin フォルダにあります。例、C:¥Program Files¥ProtectionLS 4.9.0¥bin¥ManagementConsole.exe。この実行ファイルを実行します。

**ヒント:** ライセンスサーバーを実行するのと同じマシンで管理コンソールを実行する必要はありません。必要に応じて、リモートマシンで実行されているライセンスサーバーにコンソールを接続できます。

## ユーザーの追加

1. Management Console で **License Storage** タブに切り替えます。



2. **[Edit] – [License Users]** を選択します。



3. **License Users** ダイアログ上で、**[New]** をクリックします。
4. ユーザー属性を設定します。

オプション	説明
Name	インターフェイスで表示されるユーザー名。

オプション	説明
User Name	システム上でユーザーが所持する名前。一般的に、コンピューターにログインする際の名前と同じです。  ❗ この値は大文字と小文字が区別されます。
Host	ユーザーのコンピューター名。
IP Address	ユーザーの非公開の IP アドレス。 IPv4 アドレスのみサポート。

The screenshot shows a dialog box titled "Add License User" with a close button (X) in the top right corner. It has two tabs: "General" and "Member Of". The "General" tab is selected and contains the following fields:

- Name: John
- User Name: John Smith
- Host: (empty)
- IP Address: . . .

At the bottom of the dialog, there are three buttons: "OK", "Cancel", and "Help".

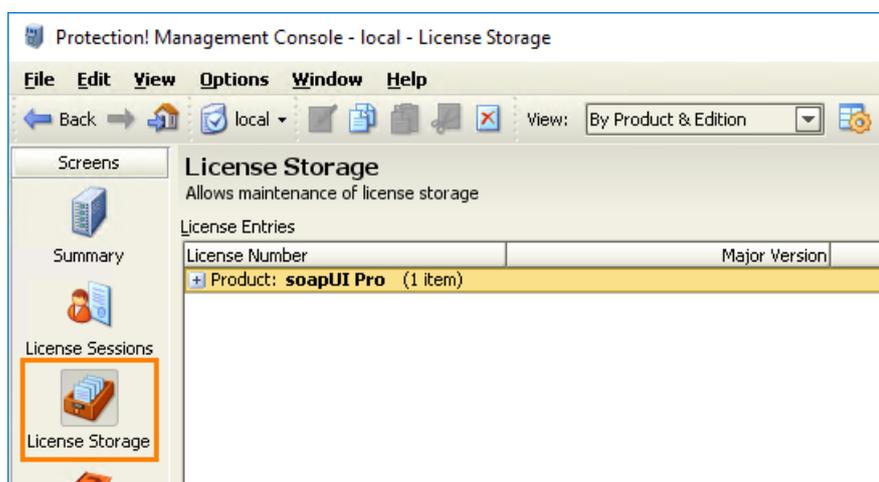
- 必要に応じて、[Member Of] タブにある既存のユーザー グループにユーザーを追加します。



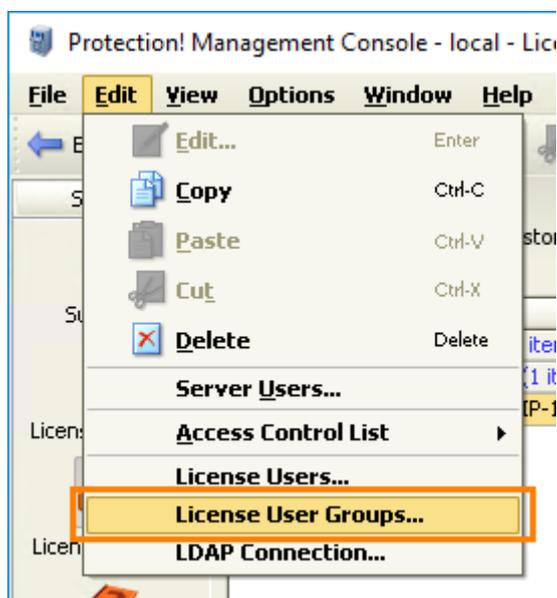
6. 両方のダイアログ上で、[OK] をクリックし変更を保存します。

## ユーザー グループの追加

1. [License Storage] タブに切り替えます。

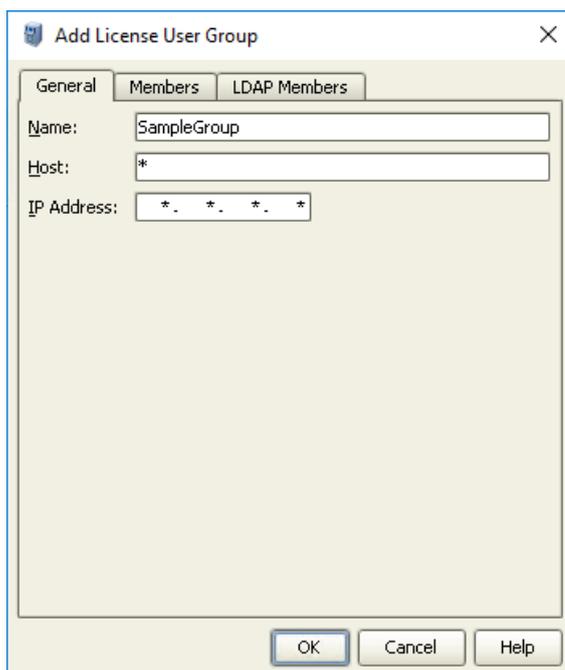


2. **[Edit] – [License User Groups]** を選択します。

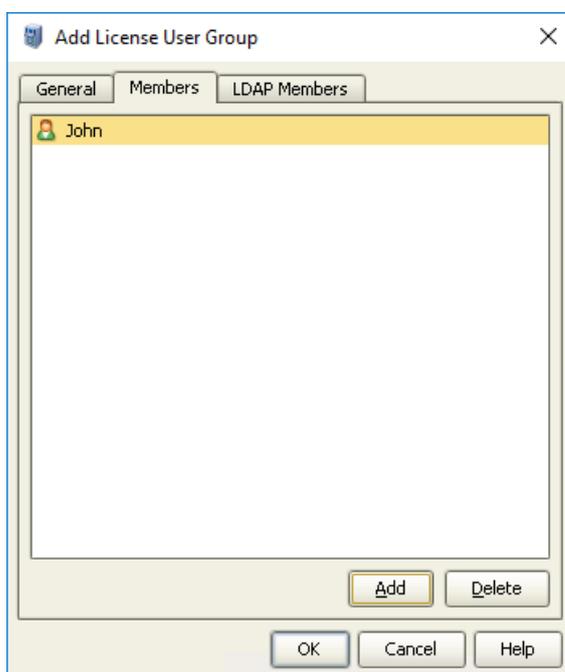


3. **[License User Groups]** ダイアログ上で、**[New]** をクリックします。
4. ユーザー グループ属性を設定します。

オプション	説明
Name	インターフェイス上で表示されるユーザー グループ名。
Host	グループに属するユーザーのコンピューター名の範囲。* および ? のワイルドカードをサポート。
IP Address	グループに属するユーザーの IP アドレスの範囲。* および ? のワイルドカードをサポート。IPv4 アドレスのみがサポートされています。



5. 必要に応じて、**[Members]** タブ上で既存のユーザーをグループに追加または削除します。

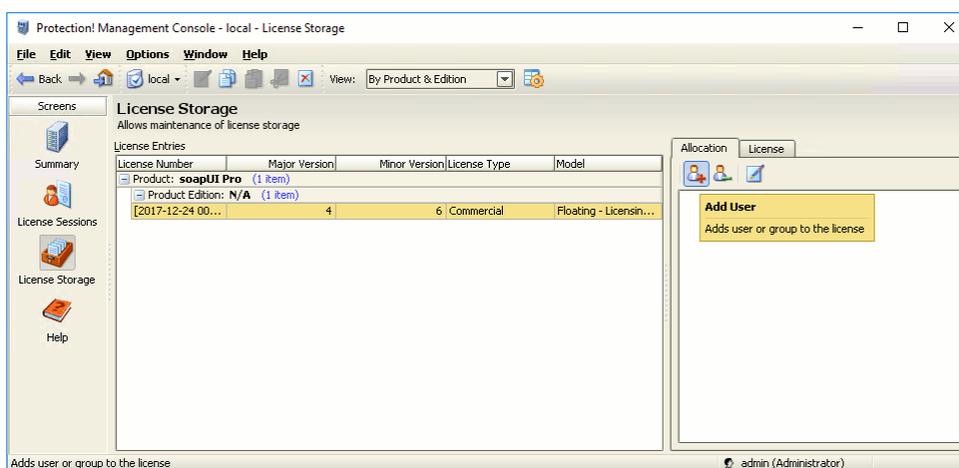


6. 両方のダイアログ上で、**[OK]** をクリックし変更を保存します。

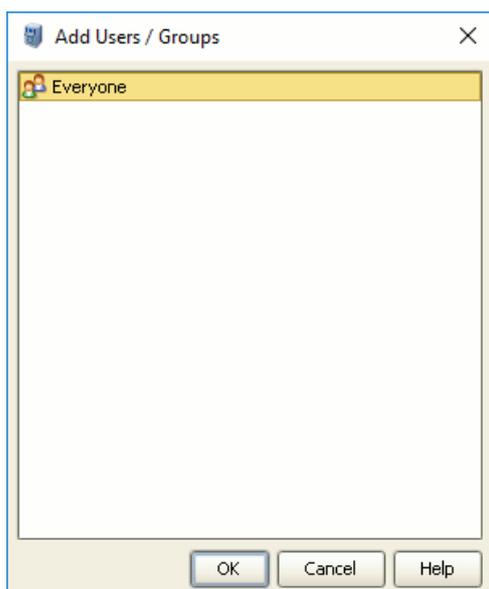
## ライセンスの割り当て

ユーザーがインストールしたライセンスにアクセスするには、ユーザー グループの設定が必要です。

1. **[License Entries]** リストからライセンス ファイルを選択し、ツールバーの **[Allocation]** タブ上で **[Add User]** をクリックします。



2. 以下のダイアログが表示されます。



3. ダイアログ上で、**[Everyone]** グループを選択し **[OK]** をクリックします。

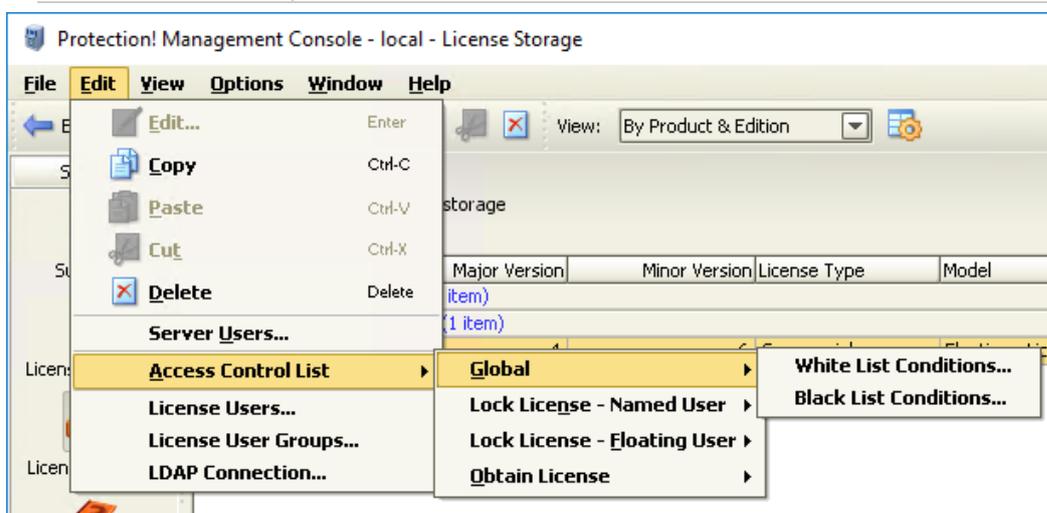
## ユーザーおよびユーザー グループの削除

ユーザーまたはユーザー グループを削除するには、対応するダイアログを開き [Delete] をクリックします。

## ユーザーのライセンスへのアクセス制限

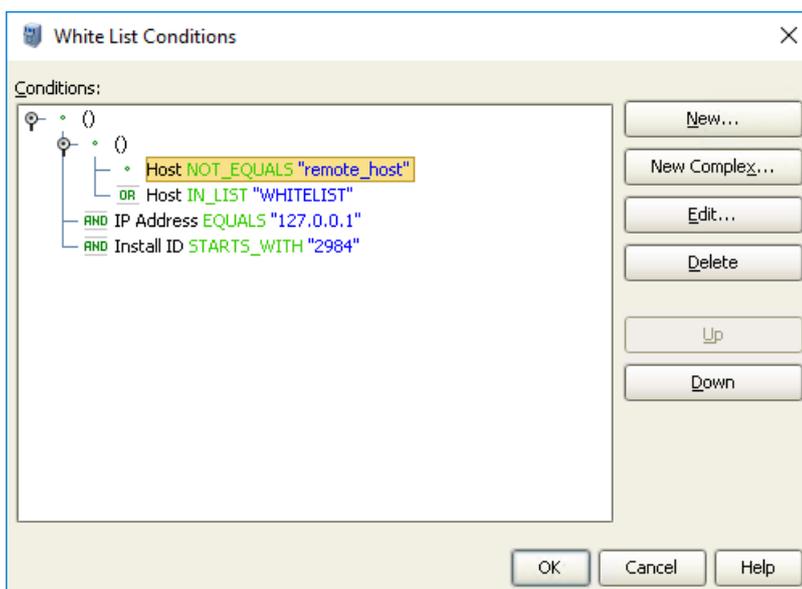
ユーザーのライセンスへのアクセスを制限するには、ホワイトリストおよびブラックリストを作成できます。リストはさまざまなレベルで制限します。

リスト	制限の対象
Global	ライセンスを必要とするすべての動作。
Lock License - Named User	名前付きユーザー ライセンス モデルを使用するライセンスのリクエスト。
Lock License - Floating User	フローティング ユーザー ライセンス モデルを使用するライセンスのリクエスト。
Obtain License	ライセンス サーバーからライセンスを取得するリクエスト。



リストを設定するには:

1. **[Edit] – [Access Control List] – [(必要なリスト)] – [(White または Black) List Conditions]** を選択します。
2. **Condition** ダイアログ上で、**[New]** または **[New Complex]** をクリックし、必要な条件を設定します。手順の詳細は、「[License server documentation](#)」を参照してください。



## ライセンスの使用レポートの取得

**Summary** ページからライセンスの使用状況レポートを取得します。ライセンス統計内の **[Download Reports]** をクリックし必要なレポートを選択します。

- **Usage per User** – サーバー上で各ユーザーによって使用されたライセンス数。
- **Total Users (Succeeded)** – ライセンスのチェックアウトに成功したユーザー情報。
- **Total Users (Failed)** – ライセンスのチェックアウトに失敗したユーザー情報。
- **Statistics** – ライセンス操作に関するすべての情報。

すべてのレポートは.csv で作成されます。

## LDAP サーバーの使用

ReadyAPI フローティング ライセンスを使用するには、このライセンスをライセンスサーバーで作成したユーザーに割り当てる必要があります。ユーザーを手動で作成する代わりに、使用可能な Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) サーバーからユーザーに関する情報を取得できます。ここでは、これを行う方法について説明します。

### 要件

LDAP のサポートが Protection! Licensing Server ver. 4.9.0 に導入されました。以前のバージョンを使用している場合は、ライセンスサーバー アプリケーションを更新する必要があります。新しいバージョンを入手する方法については、Protection! Licensing Server のインストールを参照してください。

### 一般情報

LDAP は Lightweight Directory Access Protocol の略です。LDAP サーバーには、ネットワークユーザーに関する情報が格納されます。Protection! Licensing Server は、LDAP サーバーからこの情報を取得できます。LDAP メンバーを持つユーザーグループにフローティングライセンスを割り当てた後、ユーザーはドメイン アカウントでコンピューターにログインするときにライセンスを取得できます。

この統合を機能させるには、LDAP サーバーへの接続を設定し、サーバーが同期に使用するディレクトリを指定する必要があります。下記の説明を参照してください。

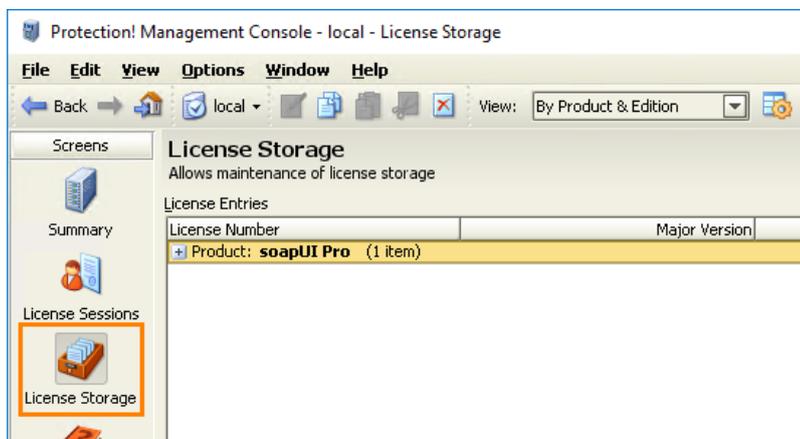
ライセンスサーバーは LDAP ユーザーをインポートしないことに注意してください。つまり、LDAP サーバーから取得した情報に基づいてユーザーアカウントを作成しません。ユーザーがライセンスを要求すると、ライセンスサーバーは、ユーザーが LDAP ディレクトリにアカウントを持っているかどうかを確認します。チェックに合格すると、ライセンスサーバーはライセンスをユーザーに提供します。

これは、任意の LDAP サーバー管理ツールを使用して、ネットワーク内の LDAP メンバー (たとえば、Microsoft Active Directory を使用している場合は Active Directory ユー

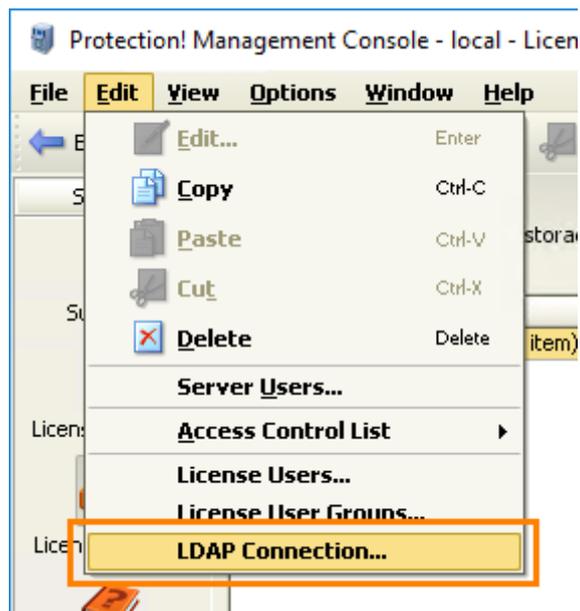
ザーとコンピューター) を管理でき、ライセンスサーバーの変更を同期する必要がないことを意味します。ユーザーは、LDAP ディレクトリに追加した直後にライセンスをチェックアウトできます。ディレクトリから削除すると、ライセンスをチェックアウトできなくなります。

## LDAP 接続を作成

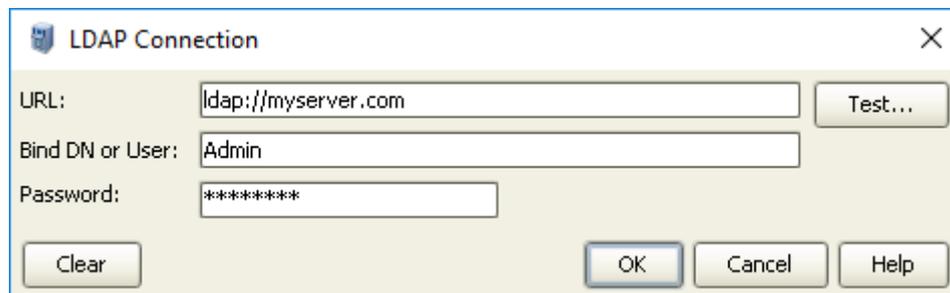
1. Protection! Licensing Server の Management Console を起動します。Management Console で、**License Storage** タブを開きます。



2. メインメニューから、**Edit > LDAP Connection** を選択します。



3. 後続の **LDAP Connection** ダイアログで、LDAP サーバーの URL と必要な資格情報を指定します。



**注意:**

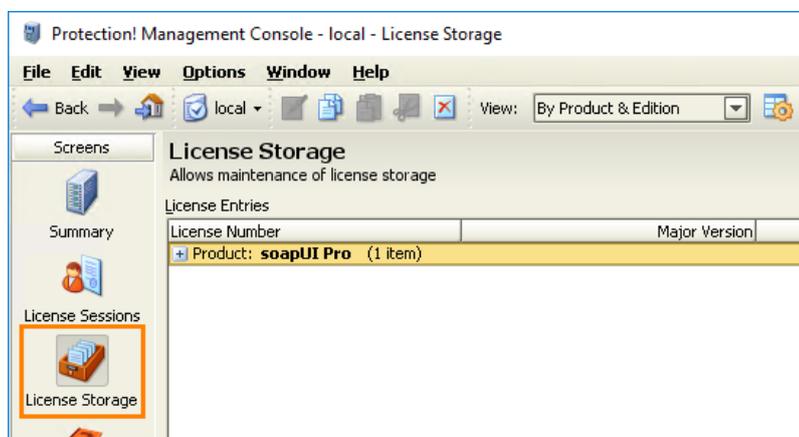
- ライセンスサーバーは、基本認証のみをサポートします。
- デフォルトでは、ライセンスサーバーはポート 389 を使用します。LDAP サーバーが別のポートを使用する場合、`ldap://address:port` 形式で URL を指定します。

4. **Test** をクリックし、指定された接続を確認します。

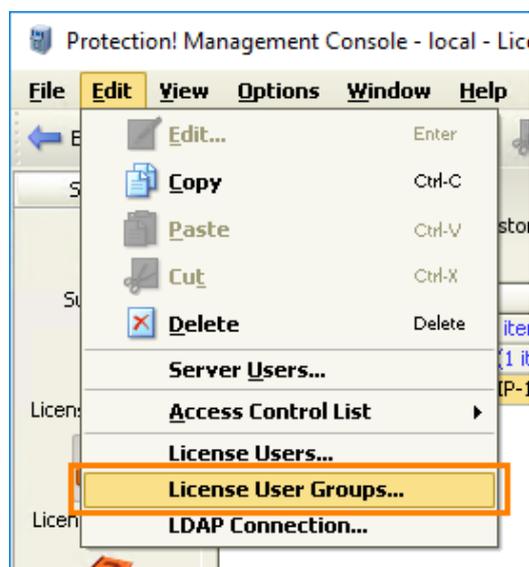
## 2. ユーザー グループを構成する

次に、LDAP ディレクトリからライセンスサーバーのユーザーグループにユーザーを追加する必要があります。

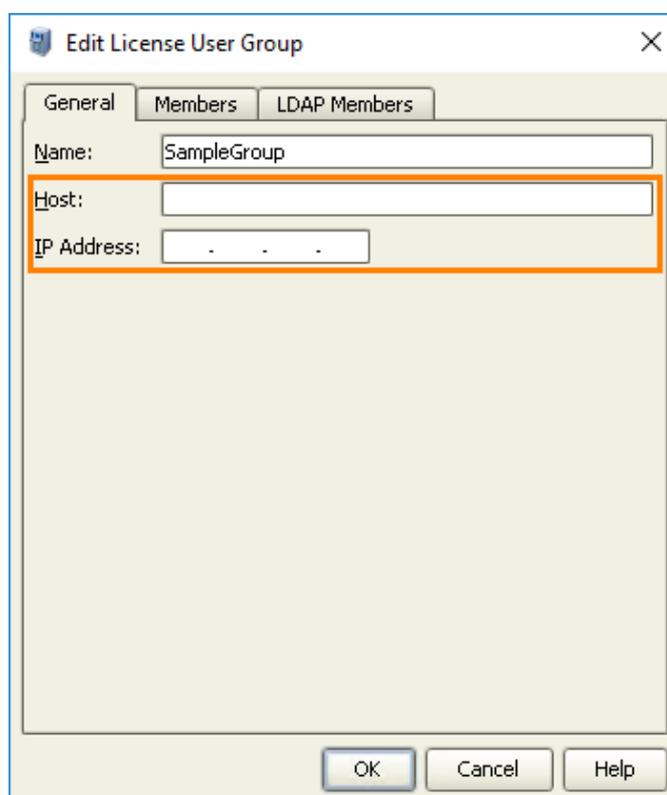
1. 管理コンソールで、**License Storage** タブを開きます。



2. メインメニューから **Edit > License User Groups** を選択します。



3. 目的のグループを選択して、**Edit** をクリックします。
4. **General** タブで、**Host** と **IP Address** 編集ボックスが空であることを確認します。



5. **LDAP Members** タブを開き、**Fetch Members from LDAP Directory** オプションを選択します。

Edit License User Group

General Members LDAP Members

Fetch Members from LDAP Directory

DN:

Filter:  
(objectClass=person)

Property Mapping

User Name: cn

Host:

IP Address:

Test...

OK Cancel Help

6. **DN** 編集ボックスで、ユーザーを取得するディレクトリの名前を指定します。

Edit License User Group

General Members LDAP Members

Fetch Members from LDAP Directory

DN:  
OU=readyapi,OU=QA,DC=example,DC=com

Filter:  
(objectClass=person)

Property Mapping

User Name: cn

Host:

IP Address:

Test...

OK Cancel Help

**Test** をクリックして、取得したユーザーを確認できます。

7. 他の設定は変更せずに、**OK** をクリックします。

ライセンスサーバーのユーザーグループを LDAP ディレクトリにバインドしました。次に、ライセンスサーバーのユーザーグループにライセンスを割り当てる必要があります。

### 3. ライセンス マネージャーでユーザーグループにライセンスを割り当て

ライセンスサーバーのユーザーグループを LDAP ディレクトリにバインドすると、このディレクトリに属するユーザーは、ライセンスサーバーからフローティングライセンスをチェックアウトできます。ただし、彼らがそれを行えるようにするには、ライセンスサーバーのユーザーグループにライセンスを割り当てる必要があります。これは、ライセンスサーバー管理コンソールで行います。詳細については、[ユーザーへのライセンス割り当て](#)を参照してください。

## licenseUsers ファイルを構成する

ライセンスサーバー上の `licenseUsers.xml` ファイルを編集して、フローティングライセンスにアクセスできるユーザーのリストを管理できます。このファイルは `<Protection! Licensing Server installation>%conf` フォルダーにあります。たとえば、`C:%Program Files%ProtectionLS 4.9.0%conf`

**注意:** それに加えて、ライセンスサーバー管理コンソールを使用できます。

このセクションでは、このアプローチを使用して、ライセンスユーザーのデータを追加、削除、および編集する方法について説明します。

### ロックの変更

ユーザーのアクセス権を変更する前に、`licenseUsers.xml.lck` という空の状態のファイルを作成します。これにより、同時に複数のユーザーによる変更およびデータの紛失を防ぎます。ファイル ロックは、`licenseUsers.xml` に変更を加えた 1 分後に自動的に削除されます。そうでない場合は、手動でファイルを削除します。

## ファイル構成

*licenseUsers.xml* は下記の要素を含みます。

要素	説明
<code>license_users</code>	ユーザー、グループおよびライセンスデータのすべての要素を含むルート要素。
<code>user</code>	<p><code>license_users</code> 子要素。ユーザーのデータを含む以下の属性を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>id</code></li> <li>• <code>name</code></li> <li>• <code>userName</code></li> <li>• <code>host</code></li> <li>• <code>IPAddress</code></li> </ul>
<code>group</code>	<p><code>license_users</code> 子要素。グループのデータを含む以下の属性を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>id</code></li> <li>• <code>name</code></li> <li>• <code>host</code></li> <li>• <code>IPAddress</code></li> <li>• <code>ldapFetchUsers</code></li> <li>• <code>ldapDN</code></li> <li>• <code>ldapFilter</code></li> <li>• <code>ldapPropertyUserName</code></li> <li>• <code>ldapPropertyHost</code></li> <li>• <code>ldapPropertyIPAddress</code></li> </ul>
<code>Ldap_connection</code>	<code>License_users</code> 子要素。LDAP 接続を指定します。
<code>member</code>	<code>Group</code> 子要素。ユーザーをグループに割り当て、 <code>id</code> 属性を持つ。
<code>license</code>	<p><code>license_users</code> 子要素。ライセンスを割り当てられたユーザーおよびユーザーグループを表示。<a href="#">インストールされたライセンス</a>の序数である整数値と共に <code>id</code> 属性を持つ。</p>

要素	説明
grant_user	License 子要素。ライセンスを割り当てられたユーザーの id 属性を持つ。
grant_group	License 子要素。ライセンスを割り当てられたグループの id 属性を持つ。

## ユーザーの追加

ユーザーをユーザーリストに追加し、ライセンス使用を許可します。

1. licenseUsers.xml を開きます。
2. ユーザー要素を license\_users ルート要素に追加します。以下の属性を持ちます。

属性	値
id	ユーザーに関連する整数。
name	ユーザー名。
userName	ユーザーのシステム名。
host	ユーザーのコンピューター名。
IPAddress	ユーザーのプライベート IP アドレス。

3. たとえば、次のように追加します。

```
<user id="1" name="John Smith" userName="john.smith" host="localhost"
  IPAddress="192.168.1.108"/>
```

4. ファイルを保存します。
5. ライセンス サーバー サービスを再起動し、変更を適用します。

## ユーザー グループの追加

ユーザーのグループをライセンスに割り当てる場合は、グループを作成し、ユーザーをグループ メンバーとして追加します。

1. `licenseUsers.xml` を開きます。
2. `license_users` ルート要素に、`group` 要素を下記の属性と共に追加します。

属性	値
<code>id</code>	グループと関連した整数。
<code>name</code>	ユーザー グループの説明名称。
<code>host</code>	グループに属するユーザーのコンピューター名。* や ? のワイルドカード使用可能。
<code>IPAddress</code>	グループに属するユーザーのプライベート IP アドレス。* や ? のワイルドカード使用可能。

たとえば、次のように追加します。

```
<group id="1" name="Everyone" host="" IPAddress="*.*.*" />
```

3. `Member` 子要素を `group` 要素に追加し、また同箇所に追加したいユーザー `id` も入力します。

たとえば、次のように追加します。

```
<group id="1" name="Everyone" host="" IPAddress="*.*.*">
  <member id="1"/>
</group>
```

4. ファイルを保存します。
5. ライセンス サーバー サービスを再起動し、変更を適用します。

## ユーザーへのライセンス割り当て

ユーザーがライセンスを使用できるようにします。

1. `licenseUsers.xml` を開きます。
2. ライセンスを割り当てたいユーザーの `id` 属性と共に `grant_user` 要素を `License` 要素に追加します。たとえば、下記のラインは上記で作成したユーザーにライセンスを割り当てます。

```
<grant_user id="1"/>
```

3. ライセンス サーバー サービスを再起動し変更を適用します。

ユーザーグループがライセンスを使用できるようにします。

- `licenseUsers.xml` を開きます。
- ライセンスを割り当てたいユーザー グループの `id` 属性と共に `grant_group` 要素を `License` 要素に追加します。

たとえば、下記のラインは、上記で作成したグループにライセンスを割り当てます。

```
<grant_group id="1"/>
```

- ライセンス サーバー サービスを再起動し変更を適用します。

## ユーザーまたはグループの削除

ユーザーまたはグループを削除するには、対応する要素をファイルから削除し、変更を保存します。たとえば、`grant_user` 要素を `license` から削除すると、対応するユーザーはライセンスを使用できません。`User` 要素を `license_users` から削除すると、ユーザー リストからそのユーザーは削除されます。

## 例

`licenseUsers.xml` ファイルのサンプル内容です。

### XML

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<license_users>
  <!--A list of users allowed to use a license:-->
```

```

    <user id="1" name="John Smith" userName="john.smith" host="localhost"
IPAddress="192.168.1.108"/>
    <user id="2" name="Mary Smith" userName="mary.smith" host="mhost"
IPAddress="192.168.1.110"/>
    <user id="3" name="Bill Taylor" userName="bill.taylor" host="billy"
IPAddress="192.168.1.115"/>
    <!--A list of groups of users allowed to use a license:-->
    <group id="1" name="Everyone" host="*" IPAddress="*.*.*.*"/>
    <group id="2" name="Administrators" host="Admin" IPAddress="192.168.1.107">
        <!--A member of the Administrators group: Mary Smith and Bill Taylor.-->
        <member id="2"/>
        <member id="3"/>
    </group>
    <!--An installed license:-->
    <license id="1">
        <!--A group assigned to a license:-->
        <grant_group id="1"/>
    </license>
    <license id="2">
        <!--Users assigned to a license-->
        <grant_user id="1"/>
        <grant_user id="2"/>
    </license>
</license_users>

```

## VirtServer ライセンスのアクティベーション

VirtServer は、Virts (仮想サービス) をリモート コンピューターで実行するためのツールです。VirtServer には、インストールされているコンピューターに別のライセンスが必要です。ここでは、VirtServer ライセンスをアクティベートする方法を説明します。

### 要件

- ライセンスをアクティベートするには、インターネット接続が必要です。
- ネットワークのセキュリティ設定で ReadyAPI サーバーへのアクセスがポート 443 経由で許可されていないとできません (<https://activation.smartbear.com>)。

### アクティベーション手順

アクティベーションは、2 つのステップで行われます。

1. ライセンス ファイルのインストール
2. ライセンスのアクティベート

#### 1. ライセンス ファイルのインストール

- VirtServer を実行します。コマンドライン ウィンドウに実行している情報が表示されます。
- VirtServer が実行時にライセンスの検出に失敗した場合、ライセンスをインストールすることを確認するメッセージが表示されます。

```

ReadyAPI VirtServer
WARN [2017-07-11 13:47:47,876] com.smartbear.virtserver.VirtServer: *****
*****
WARN [2017-07-11 13:47:47,876] com.smartbear.virtserver.VirtServer: * WARNING! You are using the default server certifi
cate, which means that traffic, including credentials, can be intercepted and read by an attacker.
WARN [2017-07-11 13:47:47,876] com.smartbear.virtserver.VirtServer: * Import your own SSL certificate by changing keySt
orePath in virt-server.yml
WARN [2017-07-11 13:47:47,876] com.smartbear.virtserver.VirtServer: *****
*****
14:47:47,893 INFO [DefaultSoapUICore] Settings saved to [C:\Users\Igor.Gusev\soapui-settings.xml]
No valid VirtServer license exists.
Please enter absolute path of the license file (.zip or .key):
y

```

- `y` を入力して ENTER キーを押します。
- ライセンス ファイルを完全修飾名で入力し、ENTER キーを押します。ライセンスファイルがインストールされます。

```

ReadyAPI VirtServer
INFO [2017-07-11 13:49:57,323] com.hubspot.dropwizard.guice.JerseyUtil: Registering com.smartbear.virtserver.resources.
V2.InfoResourceV2 as a root resource class
INFO [2017-07-11 13:49:57,323] com.hubspot.dropwizard.guice.JerseyUtil: Registering com.smartbear.virtserver.resources.
V2.TagsResourceV2 as a root resource class
INFO [2017-07-11 13:49:57,323] com.hubspot.dropwizard.guice.JerseyUtil: Registering com.smartbear.virtserver.resources.
V2.StatisticsResourceV2 as a root resource class
INFO [2017-07-11 13:49:57,323] com.hubspot.dropwizard.guice.JerseyUtil: Registering com.smartbear.virtserver.resources.
V2.ConfigResourceV2 as a root resource class
INFO [2017-07-11 13:49:57,323] com.hubspot.dropwizard.guice.JerseyUtil: Registering com.smartbear.virtserver.resources.
V2.SocketResourceV2 as a root resource class
INFO [2017-07-11 13:49:57,323] com.hubspot.dropwizard.guice.JerseyUtil: Registering com.smartbear.virtserver.resources.
V2.HarResourceV2 as a root resource class
INFO [2017-07-11 13:49:57,323] com.hubspot.dropwizard.guice.JerseyUtil: Registering com.smartbear.virtserver.resources.
V2.AnalyticsResourceV2 as a root resource class
INFO [2017-07-11 13:49:57,323] com.hubspot.dropwizard.guice.JerseyUtil: Registering com.smartbear.virtserver.resources.
V2.AdminResourceV2 as a root resource class
INFO [2017-07-11 13:49:57,323] com.hubspot.dropwizard.guice.JerseyUtil: Registering com.smartbear.virtserver.resources.
V2.ReportResourceV2 as a root resource class
WARN [2017-07-11 13:49:57,390] com.smartbear.virtserver.VirtServer: *****
*****
WARN [2017-07-11 13:49:57,390] com.smartbear.virtserver.VirtServer: * WARNING! You are using the default server certifi
cate, which means that traffic, including credentials, can be intercepted and read by an attacker.
WARN [2017-07-11 13:49:57,390] com.smartbear.virtserver.VirtServer: * Import your own SSL certificate by changing keySt
orePath in virt-server.yml
WARN [2017-07-11 13:49:57,390] com.smartbear.virtserver.VirtServer: *****
*****
14:49:57,405 INFO [DefaultSoapUICore] Settings saved to [C:\Users\Igor.Gusev\soapui-settings.xml]
No valid VirtServer license exists.
Please enter absolute path of the license file (.zip or .key):
C:\Users\readyuser\Downloads\licenses.zip

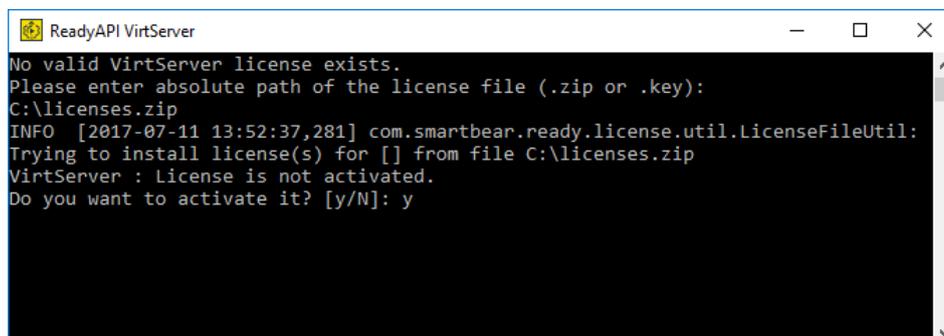
```

**注意:** ReadyAPI VirtServer ライセンスをリクエストすると、SmartBear から送付される電子メールにライセンス ファイルが添付されています。

`.zip` ファイルを指定することができます。zip アーカイブから `.key` ファイルを展開する必要はありません。ライセンスがインストールされると、アクティベートする必要がありません。下記を参照してください。

## 2. ライセンスのアクティベーション

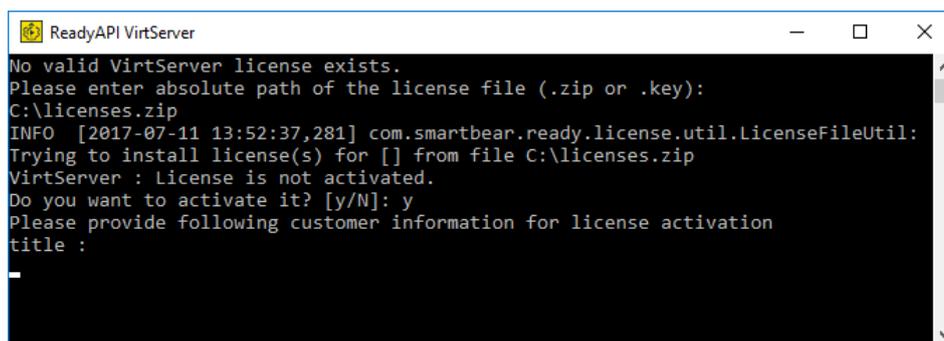
- ファイル名を入力すると、ライセンスをアクティベートするかどうか確認します。



```
ReadyAPI VirtServer
No valid VirtServer license exists.
Please enter absolute path of the license file (.zip or .key):
C:\licenses.zip
INFO [2017-07-11 13:52:37,281] com.smartbear.ready.license.util.LicenseFileUtil:
Trying to install license(s) for [] from file C:\licenses.zip
VirtServer : License is not activated.
Do you want to activate it? [y/N]: y
```

Y を入力して ENTER キーを押します。

- ここで、ユーザー情報 (名前、電子メールその他) を指定します。



```
ReadyAPI VirtServer
No valid VirtServer license exists.
Please enter absolute path of the license file (.zip or .key):
C:\licenses.zip
INFO [2017-07-11 13:52:37,281] com.smartbear.ready.license.util.LicenseFileUtil:
Trying to install license(s) for [] from file C:\licenses.zip
VirtServer : License is not activated.
Do you want to activate it? [y/N]: y
Please provide following customer information for license activation
title :
-
```

必要な情報を入力します。Enter キーを押して次の項目に進みます。”title” (役職) が最初にデータ入力する項目です。

**注意:** ユーザー情報には、購入者ではなく実際に使用するユーザー名を入力してください。

```

ReadyAPI VirtServer
Trying to install license(s) for [] from file C:\licenses.zip
VirtServer : License is not activated.
Do you want to activate it? [y/N]: y
Please provide following customer information for license activation
title :
-
firstName :
Ready
lastName :
User
company :
-
address :
Street 99
city :

state :

country :

phone :

email :

zip :
999 99
INFO [2017-07-11 13:54:52,988] com.smartbear.virtserver.VirtServer: Allowed number of running Virts: 2
INFO [2017-07-11 13:54:53,174] liquibase: Successfully acquired change log lock
INFO [2017-07-11 13:54:53,207] liquibase: Creating database history table with name: PUBLIC.DATABASECHANGELOG
INFO [2017-07-11 13:54:53,209] liquibase: Reading from PUBLIC.DATABASECHANGELOG
INFO [2017-07-11 13:54:53,230] liquibase: migrations.xml: migrations/initial.xml: :1::servicev: Table deployment created
INFO [2017-07-11 13:54:53,231] liquibase: migrations.xml: migrations/initial.xml:

```

- 入力情報が SmartBear ライセンス サーバーに送信され、ライセンスがアクティベートされます。

```

ReadyAPI VirtServer
ring admin handler with root path prefix: /
14:54:53,547 INFO [DefaultSoapUICore] No JDBC drivers found in extensions directory
INFO [2017-07-11 13:54:53,545] io.dropwizard.server.ServerFactory: Starting VirtServer
VirtServer
by SmartBear
INFO [2017-07-11 13:54:53,647] com.smartbear.virtserver.resources.v2.DeploymentResourceV2: 0 Virt(s) started automatically

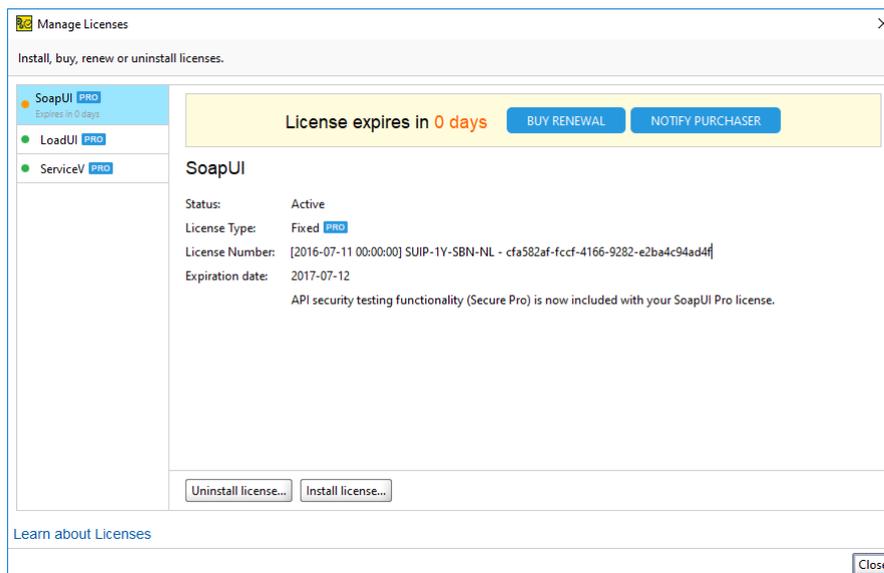
```

## エラーの場合

- エラーメッセージが表示され、解決策がわからない場合は[エクセルソフト株式会社](#)までご連絡ください。
- VirtServer ライセンスのアクティベーション中に生じる可能性のある問題の 1 つに、"Connection time out" エラーがあります。一般的には、VirtServer コンピューターが ReadyAPI ライセンス サーバーに接続されていない場合に起こります。この場合は、[license manager command-line application](#) によってアクティベーションをオフラインで行わなければなりません。

## ライセンスの更新

ReadyAPI は、ライセンスの期限切れに対して警告をします。業務の中断を防ぐため、古いライセンスの有効期限が切れる前、もしくは期限後 3 日間に更新用のライセンスをインストールすることができます。

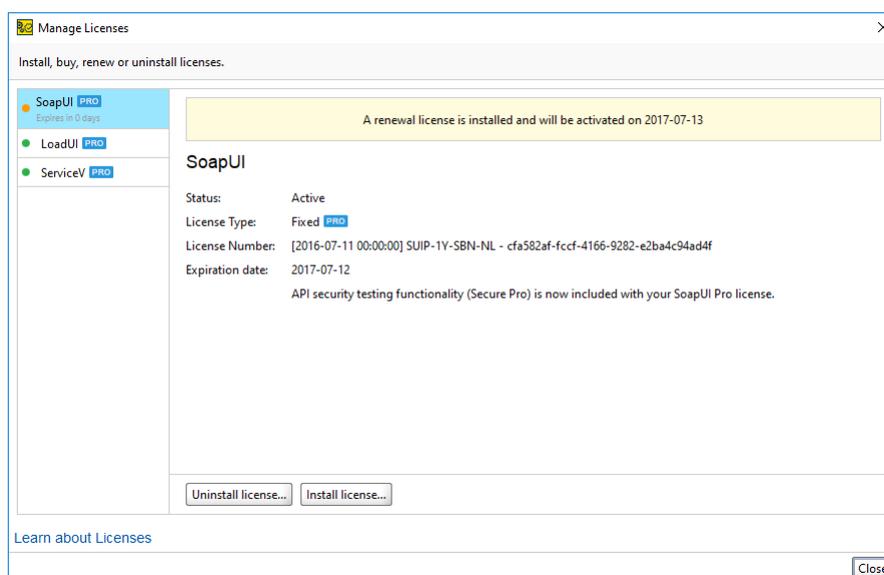


更新ライセンスは開始日が来るとアクティベートされるため、更新ライセンスを取得後すぐにインストールできます。

企業内での購入の場合、実際の利用者と購入者が異なる場合、次のオプションがあります。

利用者が購入する場合

- **[Buy Renewal]** をクリックすると、SmartBear 社のオンライン ショップが表示されます。日本のお客様はこのオプションを利用できません。 [エクセルソフト株式会社](#)まで購入のご連絡をしてください。
- 更新ライセンスを購入します。
- [ライセンス アクティベーション](#) セクションで記述されているようにライセンスをインストールします。更新ライセンスをインストールすると、更新ライセンスがインストールされたことと、更新日にそれがアクティベートされることが通知されます。



### 利用者以外が購入する場合

- **[Notify Purchaser]** をクリックすると、ライセンス購入を担当する人に送るメールが作成されます。
- 更新ライセンスを購入したら、[ライセンス アクティベーション](#) に従ってインストールします。更新ライセンスをインストールすると、更新ライセンスがインストールされた旨と、新しい有効期限が表示されます。

# ライセンスのエクスポート/インポート

---

## ライセンスのエクスポート

ライセンスをエクスポートすると、ライセンスのバックアップが作成されます。製品のアクティベート解除中にライセンスをエクスポートします。ライセンス情報をファイルに保存するだけです。エクスポートされたライセンスを含むファイルを取得したら、そのファイルを指定して別のコンピュータでライセンスをアクティベートできます。

### 注意:

- ライセンスのエクスポートは、固定ユーザー ライセンスでのみ利用できます。
- ライセンスのアクティベーションを解除すると、ツールの PRO 機能が無効となります。一部の ReadyAPI ツールのライセンスを無効にし、少なくとも 1 つの他のツールの Pro ライセンスを持っていない場合、ReadyAPI を使用することはできません。

ライセンスのアクティベーション解除に関する情報は、必要に応じて下記の手順を参照してください。

- [固定ユーザー ライセンスのオンラインでのアクティベーション解除](#)
- [固定ユーザー ライセンスのオフラインでのアクティベーション解除](#)

## ライセンスのインポート

エクスポートしたライセンスを別のコンピュータでアクティベート（インポート）できます。これを行うには、ライセンスをアクティブにするときに、エクスポートしたライセンスファイルを指定するだけです。ライセンスのアクティベーションについては、次のトピックを参照してください。

- [ファイルによるオンライン アクティベーション](#)
- [ファイルによるオフライン アクティベーション](#)

## ライセンスのアクティベーション解除

---

固定ユーザー ライセンスは、アクティベートしたコンピューターに紐付けられます。ライセンスのアクティベーションを解除するまでは、他のコンピューターで使用することはできません。アクティベーションを解除すると、ライセンス データはそのコンピューターから削除され、別のコンピューターでライセンスがアクティベートできるようにファイルにエクスポートされます。

アクティベーション解除は固定ユーザー および VirtServer ライセンスに適用されます。フローティング ライセンスのアクティベーションを解除するには、[エクセルソフト株式会社](#)までご連絡ください。

下記の場合はアクティベーションを解除します。

- 元のユーザーが会社を退職し、別のユーザーがライセンスを引き継ぐ場合
- ライセンスを別のコンピューターに移行する場合
- 技術的な問題がありコンピューターを撤去する場合
- コンピューターのアップグレードにオペレーティング システムの再インストールが必要な場合

ライセンスのアクティベーションは、オンラインまたはオフラインで解除できます。可能な限り、[オンラインによるアクティベーションの解除](#)を行ってください。オフラインでのアクティベーションの解除よりもすばやく簡単に実行できます。何らかの理由があり、オンラインでのアクティベーション解除が行えない場合のみ[オフラインでのアクティベーションの解除](#)を選択してください。

## 固定ユーザーライセンスのオンラインでのアクティベーション解除

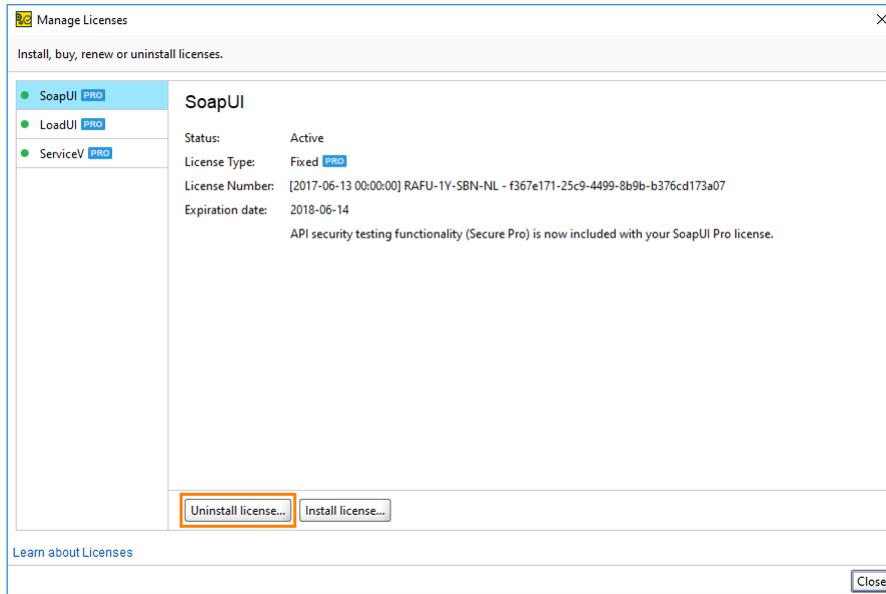
オンラインでアクティベーションを解除する場合、ReadyAPI の License Manager が SmartBear の Web サイトと情報を交換してライセンスのアクティベーションを解除し、ファイルにエクスポートします。

### 要件

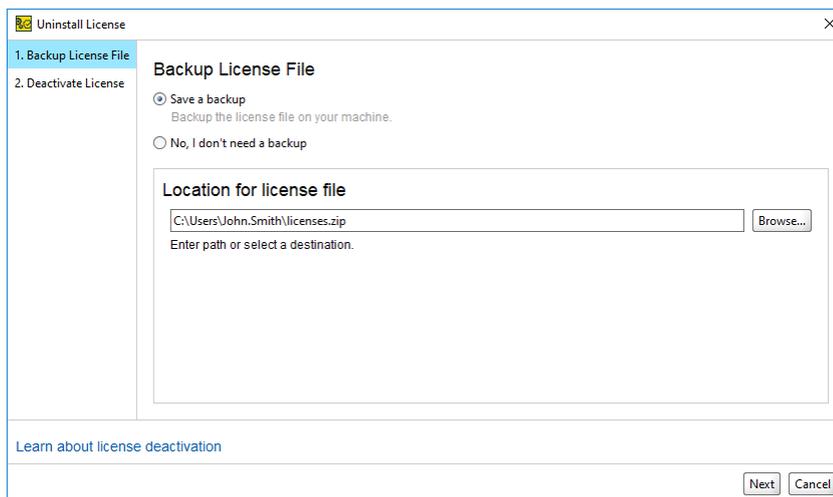
- 固定ユーザーライセンスのアクティベーションをオンラインで解除するには、インターネット接続が必要です。
- ネットワークでファイアウォールとプロキシが Web サイト (<https://activation.smartbear.com>) へのアクセスとポート番号 443 を許可していなければなりません。

### アクティベーション解除の手順

1. ReadyAPI のメイン メニューから **[Help] - [License Manager]** を選択します。
2. License Manager ダイアログでツールを選択し、**[Uninstall License]** をクリックします。



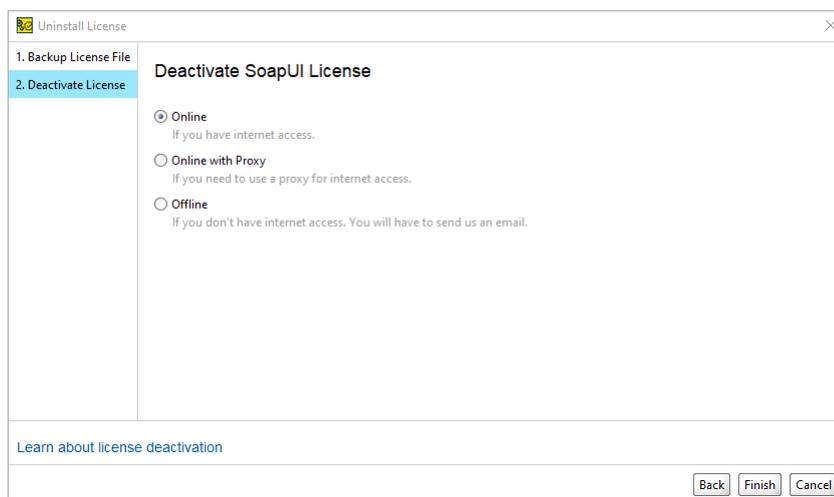
3. **Uninstall License** ウィザードが呼び出され、ライセンスのバックアップ ファイルを作成しようとしています。つまり、ウィザードがファイルをエクスポートします。**[Save a backup]** を選択してファイルの保存先を指定します。**[Next]** をクリックします。
- ❗ ライセンスのエクスポートが必要ない場合には、**[No, I don't need a backup]** を選択します。この場合、License Manager はバックアップを作成することなくライセンスのアクティベーションを解除します。この操作は元に戻せません。



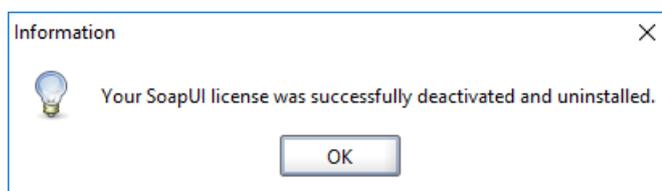
4. ウィザードの以下のページで、いずれかの方法を選択します。
  - **[Online]** - Web に接続するためにプロキシを使用していない場合。
  - または –

- **[Online with Proxy]** - プロキシ経由で接続する場合は、プロキシ設定を指定する必要があります。

**注意:** どちらのオプションを使うか定かでない場合、またはプロキシ設定について不明な場合には、システム管理者にご確認ください。



5. **[Finish]** をクリックして SmartBear にデータを送信します。
6. ReadyAPI が、アクティベーションの解除に成功したことを通知します。



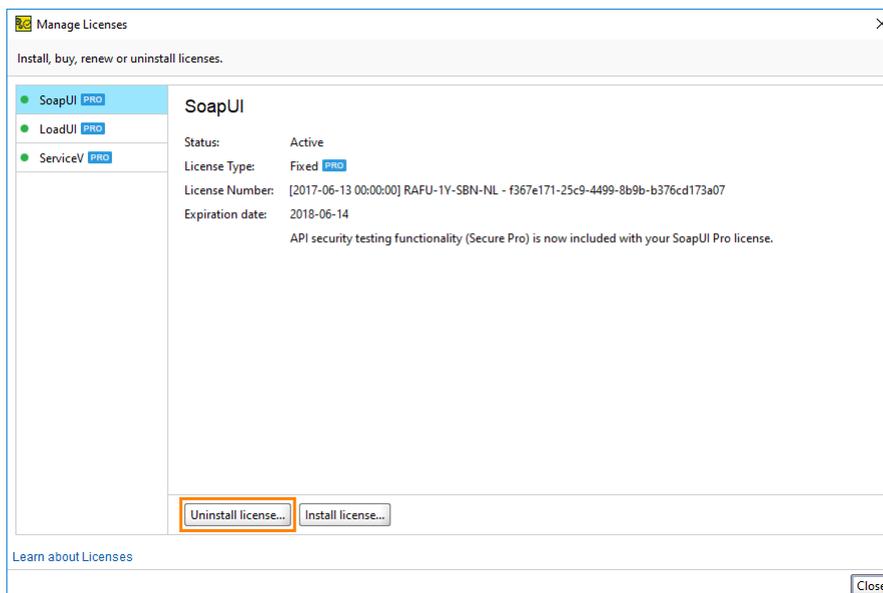
## 固定ユーザー ライセンスのオフラインでのアクティベーション解除

オフラインでアクティベーションを解除する場合、電子メールで SmartBear の ライセンス サーバーとデータを交換する必要があります。ReadyAPI は、ライセンスをファイルにエクスポートしようとします。

できる限りオンラインでのアクティベーション解除を推奨します。オフラインでのアクティベーション解除よりも速く、簡単に実行できます。何らかの理由でオンラインでのアクティベーション解除ができない場合にのみオフラインを選択してください。

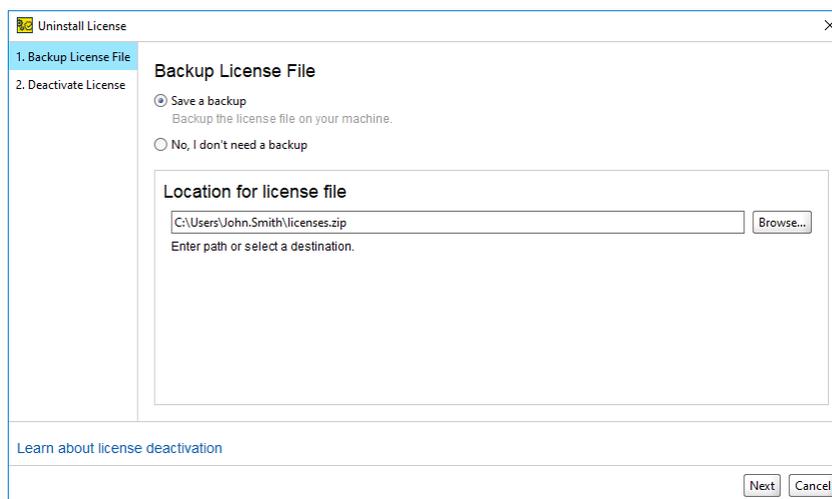
### アクティベーション解除の手順

1. ReadyAPI のメイン メニューから **[Help] - [License Manager]** を選択します。
2. License Manager ダイアログでツールを選択し、**[Uninstall License]** をクリックします。

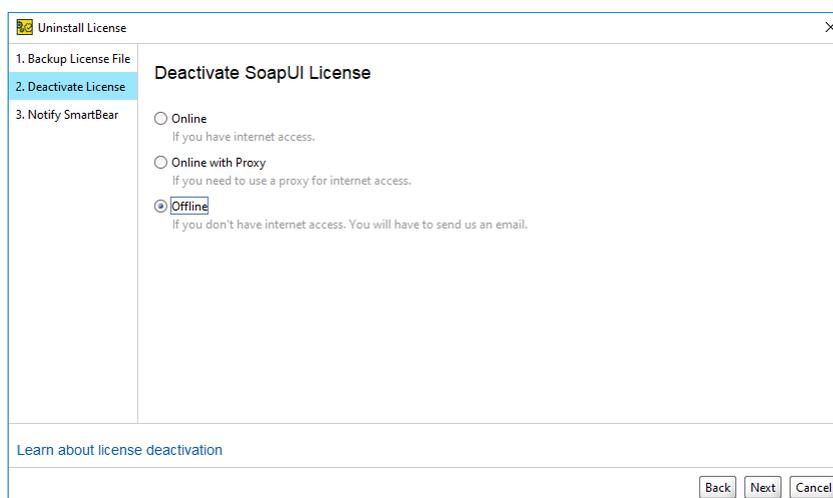


3. **Uninstall License** ウィザードが呼び出され、ライセンスのバックアップ ファイルを作成しようとします。つまり、ウィザードがファイルをエクスポートします。**[Save a backup]** を選択してファイルの保存先を指定します。**[Next]** をクリックします。

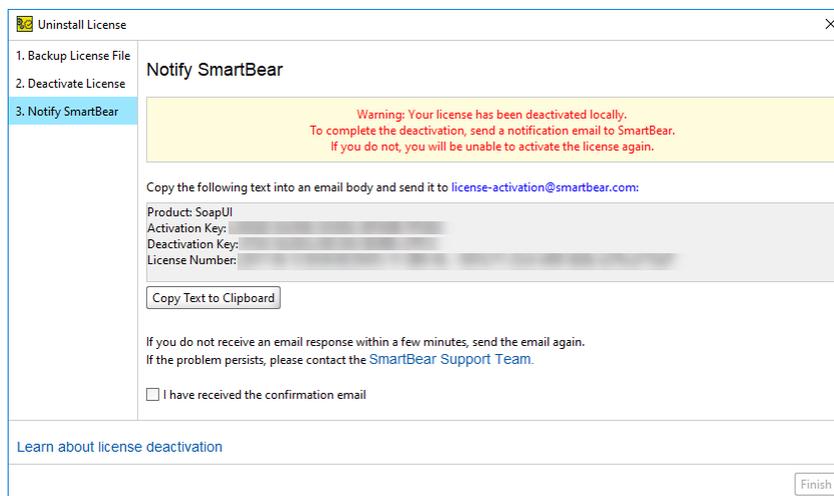
**!** ライセンスのエクスポートが必要ない場合には、**[No, I don't need a backup]** を選択します。この場合、License Manager はバックアップを作成することなくライセンスのアクティベーションを解除します。この操作は元に戻せません。



4. ウィザードの以下のページで、**[Offline]** を選択します。
5. **重要:** **[Next]** をクリックすると、コンピューターからライセンスのアクティベーションが解除されます。次の手順を実行しなければ、再度ライセンスをアクティベートすることができなくなります。



6. **[Next]** をクリックすると、ウィザードが手順と SmartBear のライセンス サーバーに送信するメッセージを表示します。



- インターネット接続されているコンピュータで電子メール クライアントを開き、新規のメッセージを作成します。
  - ウィザードの提供する情報をメッセージに入力し、[license-activation@smartbear.com](mailto:license-activation@smartbear.com) に送信します。
7. ライセンス サーバーから電子メールを受け取ったら、**[I have received the confirmation email]** チェックボックスをオンにして **[Finish]** をクリックし、ウィザードを閉じてアクティベーション解除ステップを終了します。

## VirtServer ライセンスのアクティベーション解除

[VirtServer](#) ライセンスのアクティベーション解除は、コマンドライン ウィンドウから行います。下記の手順に従ってください。

### 要件

- VirtServer ライセンスのアクティベーションを解除するには、インターネット接続が必要です。
- ネットワークでファイアウォールとプロキシが ReadyAPI のライセンス サーバー (<https://activation.smartbear.com>) へのアクセスとポート番号 443 を許可していなければなりません。

### アクティベーション解除の手順

1. VirtServer をシャットダウンします。
2. コマンドライン ウィンドウを開き、`<VirtServer>%bin` ディレクトリを表示します。
3. 次のコマンドを実行します。
  - Windows の場合  

```
VirtServer.bat --deactivatelicense
```
  - Linux または Mac の場合  

```
VirtServer.sh --deactivatelicense
```
4. ENTER キーを押します。ライセンスのアクティベーションが解除されます。  

```
--deactivatelicense
```

 引数は `-x` と短縮されます。

## ヘッドレス マシン

---

コンピューターに GUI がない場合、コマンドライン License Manager ([command-line License Manager](#)) を使う必要があります。下記のトピックで使用方法を説明しています。

[Activating Fixed Licenses](#)

[Activating Fixed Licenses in Silent Mode](#)

[Deactivating Fixed Licenses](#)

[Applying Floating Licenses](#)

[Installing License Server](#)

[Getting License Information](#)

## ライセンスに関する問題点

---

このセクションでは、ライセンスのアクティベーションおよびその解除、もしくは更新時に生じる可能性のある問題点やその原因、および解決策について説明します。問題点は、ライセンスの種類によってグループ分けされています。

- 固定ユーザー ライセンスの問題点
- フローティング ライセンスの問題点
- 試用版ライセンスの問題点
- Jenkins での “License Not Found” (“ライセンスが見つかりません”) という問題

### 固定ユーザー ライセンスの問題点

固定ユーザー ライセンスのアクティベーション、解除または更新の際に表示される可能性のあるエラー メッセージは以下の通りです。

- **Failed to activate license...** (“ライセンスのアクティベーションに失敗しました。”)
- **License is overactivated** (“ライセンスが過剰にアクティベートされました。”)
- **Could not read the license file** (“ライセンス ファイルを読み込めません。”)
- **Can't install license because the start date is in the future** (“開始日よりも前にライセンスをインストールできません。”)
- **The license in the file is invalid** (“ファイル内にあるライセンスは有効ではありません。”)
- **Unexpected error while reading license** (“ライセンスの読み込み中に予期せぬエラーが生じました。”)
- **The filename provided doesn't match the default filename (activate.key)** (“提供されたファイル名がデフォルトのファイル名 (activate.key) と一致しない。”)

## フローティング ライセンスの問題点

フローティング ライセンスのアクティベーションまたはその解除の際に表示される可能性のあるエラー メッセージは以下の通りです。

- **Failed to check out a license: Confirm that the license has been installed and has been allocated to users on the Floating License Server** (“ライセンスのチェックアウトに失敗しました。ライセンスがインストールされているか、フローティング ライセンス サーバー上でユーザーに割り当てられているかを確認してください。”)
- **Acquiring License Lock. Number of copies limit reached.** (“ライセンスのロックを取得。コピーの数が上限に達しました。”)
- **Acquiring License Lock. Connection refused to host** (“ライセンスのロックを取得。ホストへの接続が拒否されました。”)
- **Failed to install license: Connection with License server could not be establish. Check inputted IP and Port, and also firewall settings** (“ライセンスのインストールに失敗しました。ライセンス サーバーとの接続ができません。入力された IP およびポート、またファイアウォールの設定を確認してください。”)
- **Non-JRMP server at remote endpoint** (“リモート エンドポイントのサーバーが JRMP ではありません。”)
- **The license server installation file is corrupted.** (“ライセンス サーバーのインストール ファイルが破損しています。”)

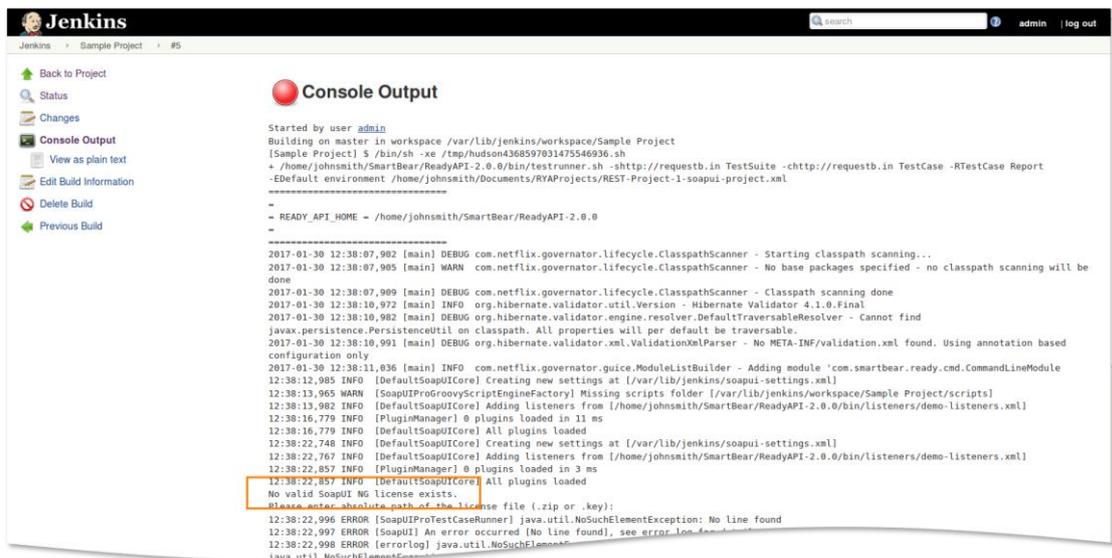
## 評価版ライセンスの問題点

評価版ライセンスのアクティベーション時に表示される可能性のあるエラー メッセージは以下の通りです:

- **License could not be downloaded** (“ライセンスをダウンロードできませんでした。”)
- **The trial license couldn't be downloaded due to an internal error on server** (“サーバーの内部エラーのため、ライセンスをダウンロードできませんでした。”)
- **Your request could not be processed at the moment** (“リクエストの処理に失敗しました。”)

## Jenkins での“License Not Found” (“ライセンスが見つかりません”) という問題

Jenkins で [testrunner](#) を実行すると、“license not found” (“ライセンスが見つかりません”) というエラーが生じる場合があります。



```

Jenkins
Sample Project #5
Back to Project
Status
Changes
Console Output
View as plain text
Edit Build Information
Delete Build
Previous Build

Console Output

Started by user admin
Building on master in workspace /var/lib/jenkins/workspace/Sample Project
[Sample Project] $ /bin/sh -xe /tmp/hudson4368597831475546936.sh
+ /home/johnsmith/SmartBear/ReadyAPI-2.0.0/bin/testrunner.sh -shttp://requestb.in/TestSuite -chttp://requestb.in/TestCase -RTestCase Report
-Default environment: /home/johnsmith/Documents/RTAPProjects/REST-Project-1-soapui-project.xml
-----
- READY_API_HOME = /home/johnsmith/SmartBear/ReadyAPI-2.0.0
-----
2017-01-30 12:38:07,982 [main] DEBUG com.netflix.governator.lifecycle.ClasspathScanner - Starting classpath scanning...
2017-01-30 12:38:07,985 [main] WARN com.netflix.governator.lifecycle.ClasspathScanner - No base packages specified - no classpath scanning will be done
2017-01-30 12:38:07,989 [main] DEBUG com.netflix.governator.lifecycle.ClasspathScanner - Classpath scanning done
2017-01-30 12:38:10,932 [main] INFO org.hibernate.validator.util.Version - Hibernate Validator 4.1.0.Final
2017-01-30 12:38:10,982 [main] DEBUG org.hibernate.validator.engine.resolver.DefaultTraversableResolver - Cannot find javax.persistence.PersistenceUtil on classpath. All properties will per default be traversable.
2017-01-30 12:38:10,991 [main] DEBUG org.hibernate.validator.xml.ValidationXmlParser - No META-INF/validation.xml found. Using annotation based configuration only
2017-01-30 12:38:11,036 [main] INFO com.netflix.governator.guice.ModuleListBuilder - Adding module 'com.smartbear.ready.cmd.CommandLineModule
12:38:13,985 INFO [DefaultSoapUICore] Creating new settings at [/var/lib/jenkins/soapui-settings.xml]
12:38:13,985 WARN [SoapUIProGroovyScriptEngineFactory] Missing scripts folder [/var/lib/jenkins/workspace/Sample Project/scripts]
12:38:13,982 INFO [DefaultSoapUICore] Adding listeners from [/home/johnsmith/SmartBear/ReadyAPI-2.0.0/bin/listeners/demo-listeners.xml]
12:38:16,779 INFO [PluginManager] 0 plugins loaded in 11 ms
12:38:16,779 INFO [DefaultSoapUICore] All plugins loaded
12:38:22,748 INFO [DefaultSoapUICore] Creating new settings at [/var/lib/jenkins/soapui-settings.xml]
12:38:22,767 INFO [DefaultSoapUICore] Adding listeners from [/home/johnsmith/SmartBear/ReadyAPI-2.0.0/bin/listeners/demo-listeners.xml]
12:38:22,857 INFO [PluginManager] 0 plugins loaded in 3 ms
12:38:22,857 INFO [DefaultSoapUICore] All plugins loaded
No valid SoapUI NG license exists.
Please enter absolute path of the license file (.zip or .key):
12:38:22,996 ERROR [SoapUIProTestRunner] java.util.NoSuchElementException: No line found
12:38:22,997 ERROR [SoapUI] An error occurred [No line found], see error log for details
12:38:22,998 ERROR [errorlog] java.util.NoSuchElementException: No line found
java.util.NoSuchElementException: No line found

```

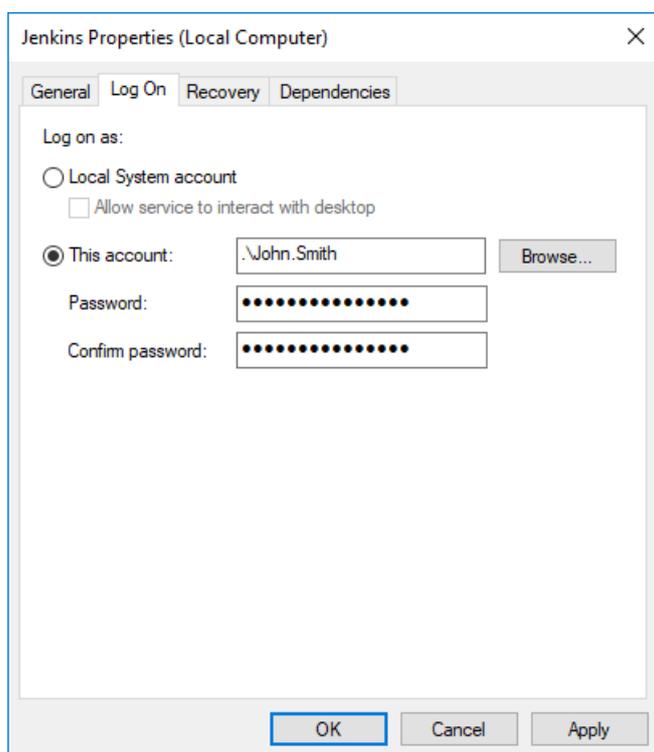
一般的な原因としては、SoapUI ライセンスのアクティベーションに使用したユーザー アカウントで Jenkins を実行していないことが挙げられます。

Jenkins をサービスとして個別に実行しているか、アプリケーション サーバーで実行しているかに関わらず、SoapUI ライセンスをアクティベートしたのと同じユーザー アカウントが使用されていることを確認する必要があります。ここでは、この問題の解決方法を説明します。

### Windows ユーザーの場合

1. 有効なライセンスがアクティベートされていることを確認します。有効なライセンスがない場合には、SoapUI ライセンスをアクティベートします（「[アクティベーション](#)」を参照してください）。
2. **[コントロール パネル]** を開きます。

3. [システムとセキュリティ] - [管理ツール] を選択します。
4. サービス ユーティリティを実行します。
5. Jenkins サービスを検索します。
6. サービスを右クリックして [プロパティ] を選択します。
7. [ログオン] タブで [アカウント] を選択し、SoapUI ライセンスのアクティベーション時に使用したユーザー アカウント名とパスワードを入力します。



8. サービスを再起動して変更を適用させます。

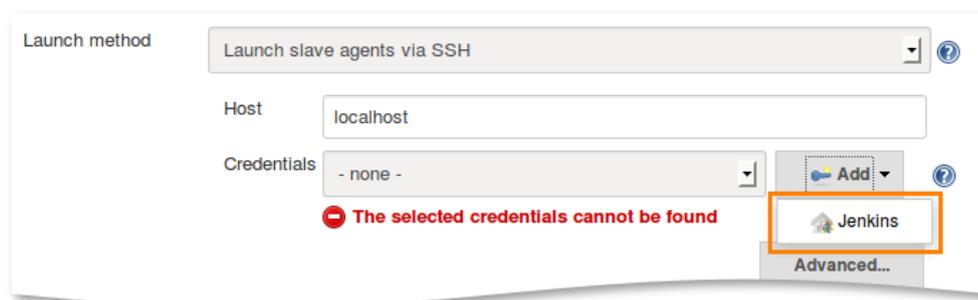
## Linux / MacOS ユーザーの場合

Linux や MacOS マシン上の問題を解決するには、SSH を介して実行されているノード上の対応しているジョブを実行します。これにより、Jenkins がジョブを実行しているユーザーを選択することができます。以下の手順でノード作成します。

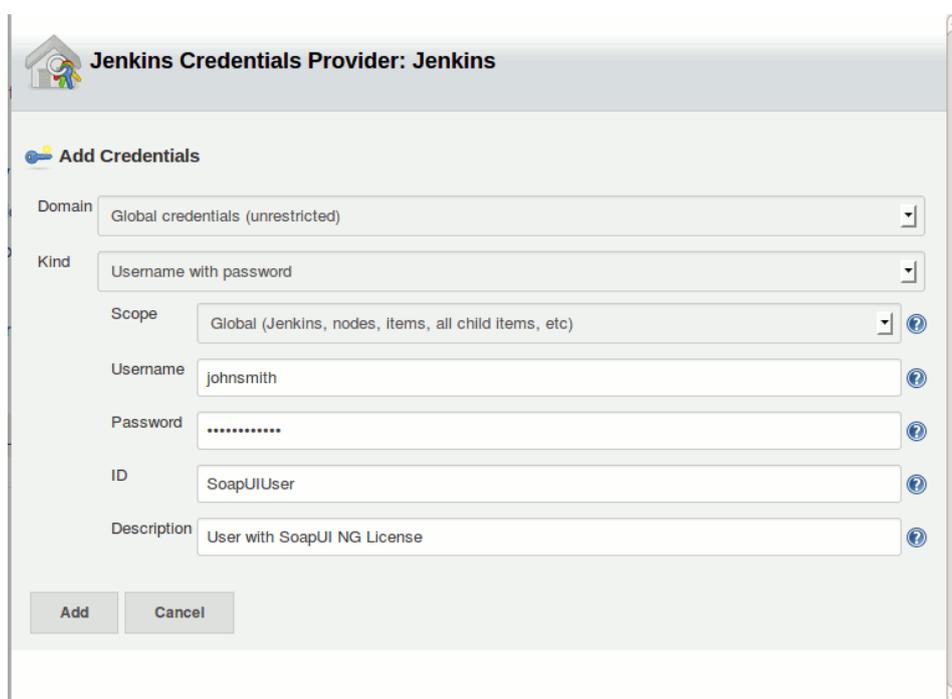
1. Jenkins 下で、**[Manage Jenkins] – [Manage Nodes] – [New Node]** を選択します。
2. ノード名を指定し、**[Permanent Agent]** ノードを選択します。**[OK]** をクリックします。
3. 作成したノード特有のラベルを指定し、特定のジョブをこのノード上で実行します。
4. **[Launch method]** ドロップダウン リストから **[Launch slave agents via SSH]** を選択します。
5. *Localhost* を **Host** として指定します。

The screenshot shows the Jenkins 'New Node' configuration page. The 'Labels' field is highlighted with an orange box and contains 'LocalSSH'. The 'Launch method' dropdown is also highlighted with an orange box and is set to 'Launch slave agents via SSH'. The 'Host' field is set to 'localhost'. The 'Credentials' dropdown is set to '- none -' and has an 'Add...' button next to it. A red error message below the credentials field reads 'The selected credentials cannot be found'. The 'Advanced...' button is visible below the error message. The 'Node Properties' section has checkboxes for 'Environment variables' and 'Tool Locations', both of which are unchecked. A 'Save' button is at the bottom of the form.

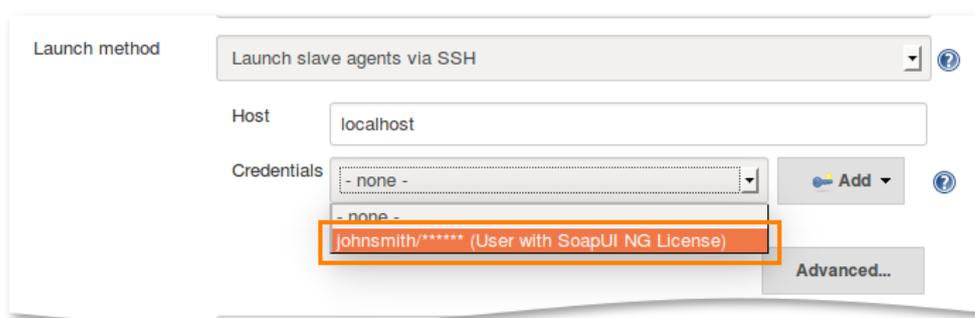
6. **[Credentials]** フィールド内の **[Add]** をクリックし、**[Jenkins]** プロバイダーを選択します。



7. ジョブを実行したいユーザーのログインとパスワードを指定し **[Add]** をクリックします。

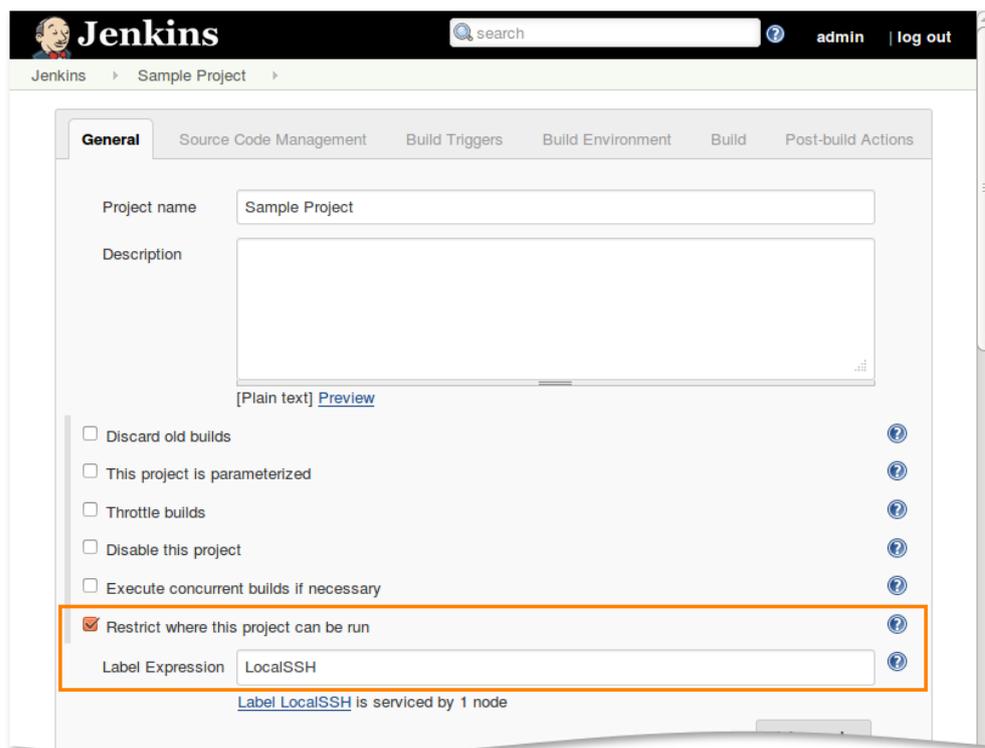


8. ドロップダウン リストから作成した資格情報を選択します。ジョブの設定を開きます。



- [Save]** をクリックしノード作成完了です。作成したノード上でジョブを実行します。

- ジョブの設定を開きます。
- **[Restrict where this project can be run]** オプションを有効にします。
- **[Label Expression]** フィールド内で、必要なラベルを指定します。



## ReadyAPI 3.0 への移行

---

多くの ReadyAPI ユーザーが以前から SoapUI OS、SoapUI Pro、LoadUI または LoadUI Pro を使用しています。このセクションでは、これらの環境から ReadyAPI への移行方法を説明します。

### ReadyAPI 1.x から

ReadyAPI プロジェクトは、完全に下位互換です。バージョンを更新する際に、更なるアクションを実行する必要はありません。初期設定やワークスペースの設定を自動的に ReadyAPI にインポートします。

### SoapUI Open Source または SoapUI Pro から

SoapUI 上で作成されたプロジェクトは ReadyAPI と互換性があります。ReadyAPI 上でプロジェクトを開き、新しいフォーマットに変換し即座に使用することができます。

**!** プロジェクトを ReadyAPI に変換後 SoapUI に戻ると、ReadyAPI 特有のすべての機能は使用できません。たとえば、LoadUI テストは、下位互換ではありません。

詳細については、「[Migrating to ReadyAPI From SoapUI or SoapUL Pro](#)」を参照してください。

### LoadUI または LoadUI Pro から

LoadUI と ReadyAPI 間の違いにより、現時点で LoadUI テストを直接 ReadyAPI にインポートできません。

LoadUI と ReadyAPI 間の違いについての詳細は、「[Migrating From LoadUI Pro](#)」を参照してください。

## トラブルシューティング

---

このセクションでは生じる可能性のある問題および解決策について説明します。

### 大規模な SoapUI テスト実行中のフリーズ

**一般的な原因:** 多数のテスト スイートとテスト ケースを平行して実行している場合、SoapUI が停止することがあります。

**解決策:** 平行して実行する場合、ReadyAPI の使用可能なスレッドが消費されます。一度スレッドがなくなると、ReadyAPI はアクションへの応答またはテストの実行を継続できません。テスト ケースとテスト スイートの使用数を減らすか、またはテスト ケースやテスト スイートを順番に実行するようにテストの設定を変更してください。

### ReadyAPI のスプラッシュ スクリーンが開始しない

**一般的な原因:**

- Java 仮想マシンを開始するのに十分な RAM がありません。
- Java 仮想マシンが ReadyAPI で実行不可能な Java オプションを使用しようとしています。

**解決策:**

- ReadyAPI を実行するコンピューターが [最低限のシステム要件](#) を満たしているか確認してください。
- `JAVA_TOOL_OPTIONS` および `_JAVA_OPTIONS` OS 環境変数を削除してください。

## macOS 上でのフリーズ

**一般的な原因:** ReadyAPI がフリーズし応答が返ってきません。

**解決策:** 内部ブラウザを無効にしてください。

**注意:** この操作は一般的な内部ブラウザを無効にするため、[Discovery with internal browser](#) 機能を使用できなくなります。しかし、プロキンを通してまたは外部ブラウザを使用して同じ機能を使用することができます。

- `Applications/<Ready-API-Version>.app/Contents/` ディレクトリをインストール フォルダ上で検索します。
- `vmoptions.txt` ファイルを開きます。
- `Dsoapui.browser.disabled=true` ラインを追加します。
- ReadyAPI を再起動します。

# サポート

---

## お問合せ先

エクセルソフト株式会社

<http://www.xlsoft.com/jp/services/contact.html>

SmartBear

<https://support.smartbear.com/about>